●出版ニ關スル願届書式

（明治三十二年七月十四日内務省告示第八十號）

出版ニ關スル願届書式左ノ通之ヲ定ム

第一書式

出版届

「著作者ノ氏名、稱號」著（編輯、演説、講義、飜譯）

一 文書圖畫ノ題號　　全何冊（枚）

右出版法ニ依リ年月日ヨリ發行候間製本二部相添此段御届申上候也

年　月　日

原籍及住所

發行者商號　氏　名　印

年　齡

原籍及住所

第二書式

再版届

「著作者ノ氏名、稱號」著（編輯、演説、講義、飜譯）

一 文書圖畫ノ題號　　全何冊（枚）

一 初版發行ノ年月日

右出版法ニ依リ年月日ヨリ發行候間製本二部相添此段御届申上候也

年　月　日

著作者（相續者）氏　名　印

原籍及住所

發行者商號　氏　名　印

年　齡

原籍及住所

内務大臣宛

著作者(相續者)氏　　名　印

八百八十二

第三書式

學術(技藝、統計、廣告)雜誌出版届

一、雜誌ノ題號　　第何號

右ハ專ラ學術(技藝、統計、廣告)ニ關スル本項ヲ記載シ出版法ニ依リ年月日發行候間製本二部相添此段御届申上候也

年　月　日

原籍及住所
編輯者　氏　名　印
原籍及住所
發行者商號　氏　名　印
年齡

内務大臣宛

第四書式

學術(技藝、統計、廣告)雜誌出版手續省略願

一、雜誌ノ題號　　第何號ヨリ

右ハ專ラ學術(技藝、統計、廣告)ニ關スル本項ヲ記載シ出版法ニ依リ出版候間出版ノ都度届出ノ手續ヲ省略シテ製本二部ヲミ相納候樣致度此段相願候也

年　月　日

原籍及住所
編輯者　氏　名　印
原籍及住所
發行者商號　氏　名　印
年齡

内務大臣宛

出版ニ關スル願届書式

八百八十三

著作權法（明治三十二年三月三日 法律第三十九號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル著作權法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム御名御璽

著作權法

第一章　著作者ノ權利

第一條　文書演述圖畫彫刻模型寫眞其ノ他文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作者ハ其ノ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有ス

文藝學術ノ著作物ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ各種ノ脚本及樂譜ノ著作權ハ興行權ヲ含有ス

第二條　著作權ハ之ヲ讓渡スコトヲ得

第三條　發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ著作者ノ生存間及其ノ死後三十年間繼續ス

數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權ハ最終ニ死亡シタル者ノ死後三十年間繼續ス

第四條　著作者ノ死後發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

第五條　無名又ハ變名著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス但シ其ノ期間内ニ著作者其ノ實名ノ登錄ヲ受ケタルトキハ第三條ノ規定ニ從フ

第六條　官公衙學校社寺協會會社其ノ他團體ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

第七條　著作權者原著作物發行ノトキヨリ十年内ニ其ノ翻譯物ヲ發行セサルトキハ其ノ翻譯權ハ消滅ス

前項ノ期間内ニ著作權者其ノ保護ヲ受ケントスル國語ノ翻譯物ヲ發行シタルトキハ其ノ國語ノ翻譯權ハ消滅セス

第八條　冊號ヲ逐ヒ順次ニ發行スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ每冊若ハ

毎號發行ノトキヨリ起算ス

一部分ヅツヲ漸次ニ發行シ全部完成スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ最終部分ノ發行ノトキヨリ起算ス但シ三年ヲ經過シ仍繼續ノ部分ヲ發行セサルトキハ既ニ發行シタル部分ヲ以テ最終ノモノト看做ス

第九條　前六條ノ場合ニ於テ著作權ノ期間ヲ計算スルニハ著作者死亡ノ年又ハ著作物ヲ發行又ハ興行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

第十條　相續人ナキ場合ニ於テ著作權ハ消滅ス

第十一條　左ニ記載シタルモノハ著作權ノ目的物ト爲ルコトヲ得ス

一　法律命令及官公文書

二　新聞紙及定期刊行物ニ記載シタル雜報及政事上ノ論說若ハ時事ノ記事

三　公開セル裁判所、議會並政談集會ニ於テ爲シタル演述

第十二條　無名又ハ變名著作物ノ發行者又ハ興行者ハ著作權者ニ屬スル權利ヲ保全スルコトヲ得但シ著作者其ノ實名ノ登錄ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權ハ各著作者ノ共有ニ屬ス

各著作者ノ分擔シタル部分明瞭ナラサル場合ニ於テ著作者中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者ハ其ノ者ニ賠償シテ其ノ持分ヲ取得スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

各著作者ノ分擔シタル部分明瞭ナル場合ニ於テ著作者中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者ハ自己ノ部分ヲ分離シ單獨ノ著作物トシテ發行又ハ興行スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

本條第二項ノ場合ニ於テハ發行又ハ興行ヲ拒ミタル著作者ノ意ニ反シテ其ノ氏名ヲ其ノ著作物ニ掲クルコトヲ得ス

第十四條　數多ノ著作物ヲ適法ニ編輯シタル者ハ著作者ト看做シ其ノ編輯物全部ニ付テノミ著作權ヲ有ス但シ各部ノ著作權ハ其ノ著作者ニ屬ス

第十五條　著作權者ハ著作權ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權者ハ登錄ヲ受クルニ非サレハ僞作ニ對スル民事ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

著作權ノ讓渡及質入ハ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

無名又ハ變名著作物ノ著作者ハ其ノ實名ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

第十六條　登錄ハ行政廳之ヲ行フ

登錄ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　未タ發行又ハ興行セサル著作物ノ原本及其ノ著作權ハ債權者ノ爲ニ差押ヲ受クルコトナシ但シ著作權者ニ於テ承諾ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　著作權ヲ承繼シタル者ハ著作者ノ同意ナクシテ其ノ著作者ノ氏名稱號ヲ變更シ若ハ其ノ題號ヲ改メ又ハ其ノ著作物ヲ改竄スルコトヲ得ス

第十九條　原著作物ニ訓點、傍訓、句讀、批評、註解、附錄、圖畫ヲ加ヘ又ハ其ノ他ノ修正增減ヲ爲シ若ハ翻案シタルカ爲新ニ著作權ヲ生スルコトナシ但シ新著作物ト看做サルヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十條　新聞紙及定期刊行物ニ掲載シタル記事ニ關シテハ小說ヲ除ク外著作權者カ特ニ轉載ヲ禁スル旨ヲ明記セサルトキハ其ノ出所ヲ明示シテ轉載スルコトヲ得

第二十一條　適法ニ翻譯ヲ爲シタル者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス

翻譯權ノ消滅シタル著作物ニ關シテハ前項ノ翻譯者ハ他人カ原著作物ヲ翻譯スルコトヲ妨クルコトヲ得ス

第二十二條　原著作物ト異リタル技術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス

第二十三條　寫眞著作權ハ十年間繼續ス

前項ノ期間ハ其ノ著作物ヲ始メテ發行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス若シ發行セ

サルトキハ種板ヲ製作シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

寫眞術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ原著作物ノ著作權ト同一ノ期間内本法ノ保護ヲ享有ス但シ當事者間ニ契約アルトキハ其ノ契約ノ制限ニ從フ

第二十四條　文藝學術ノ著作物中ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其ノ著作物ノ爲ニ著作シ又ハ著作セシメタルモノナルトキハ其ノ著作權ハ文藝學術ノ著作物ノ著作者ニ屬シ其ノ著作權ト同一ノ期間内繼續ス

第二十五條　他人ノ囑託ニ依リ著作シタル寫眞肖像ノ著作權ハ其ノ囑託者ニ屬ス

第二十六條　寫眞ニ關スル規定ハ寫眞術ト類似ノ方法ニ依リ製作シタル著作物ニ準用ス

第二十七條　著作權者ノ不明ナル著作物ニシテ未タ發行又ハ興行セサルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得

第二十八條　外國人ノ著作權ニ付テハ條約ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外本法ノ規定ヲ適用ス但シ著作權保護ニ關シ條約ニ規定ナキ場合ニハ帝國ニ於テ始メテ其ノ著作物ヲ發行シタル者ニ限リ本法ノ保護ヲ享有ス

第二章　僞作

第二十九條　著作權ヲ侵害シタル者ハ僞作者トシ本法ニ規定シタルモノノ外民法第三編第五章ノ規程ニ從ヒ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第三十條　既ニ發行シタル著作物ヲ左ノ方法ニ依リ複製スルハ僞作ト看做サス

第一　發行スルノ意思ナク且器械的又ハ化學的方法ニ依ラスシテ複製スルコト

第二　自己ノ著作物中ニ正當ノ範圍内ニ於テ節錄引用スルコト

第三　普通教育上ノ修身書及讀本ノ目的ニ供スル爲ニ正當ノ範圍内ニ於テ拔

萃蒐輯スルコト

第四　文藝學術ノ著作物ノ文句ヲ自己ノ著作シタル脚本ニ挿入シ又ハ樂譜ニ充用スルコト

第五　文藝學術ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ美術上ノ著作物ヲ挿入シ又ハ美術上ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ文藝學術ノ著作物ヲ挿入スルコト

第六　圖畫ヲ彫刻物模型ニ作リ又ハ彫刻物模型ヲ圖畫ニ作ルコト

本條ノ場合ニ於テハ其ノ出所ヲ明示スルコトヲ要ス

第三十一條　帝國ニ於テ發賣頒布スルノ目的ヲ以テ偽作物ヲ輸入スル者ハ偽作者ト看做ス

第三十二條　練習用ノ爲ニ著作シタル回題ノ解答書ヲ發行スル者ハ偽作者ト看做ス

第三十三條　善意ニシテ且過失ナク偽作ヲ爲シテ利益ヲ受ケタル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第三十四條　數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權者ハ偽作ニ對シ他ノ著作權者ノ同意ナクシテ告訴ヲ爲シ及自己ノ持分ニ對スル損害ノ賠償ヲ請求シ又ハ自己ノ持分ニ應シテ前條ノ利益ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第三十五條　偽作ニ對シ民事ノ訴訟ヲ提起スル場合ニ於テハ既ニ發行シタル著作物ニ於テ其ノ著作者トシテ氏名ヲ掲ケタル者ヲ以テ其ノ著作者ト推定スル

無名又ハ變名著作物ニ於テハ其ノ著作物ニ發行者トシテ氏名ヲ掲ケタル者ヲ以テ其ノ發行者ト推定スル

未タ發行セサル脚本及樂譜ノ興行ニ關シテハ其ノ興行ニ著作者トシテ氏名ヲ顯ハシタル者ヲ以テ其ノ著作者ト推定スル

著作者ノ氏名ヲ顯ハササルトキハ其ノ興行者ヲ以テ其ノ著作者ト推定スル

第三十六條　偽作ニ關シ民事ノ出訴又ハ刑事ノ起訴アリタルトキハ裁判所ハ原告又ハ告訴人ノ申請ニ依リ保證ヲ立テシメ又ハ立テシメスシテ假ニ偽作ノ疑

アル著作物ノ發賣頒布ヲ差止メ若ハ之ヲ差押ヘ又ハ其ノ興行ヲ差止ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ僞作ニ非サル旨ノ判決確定シタルトキハ申請者ハ差止又ハ差押ヨリ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第三章　罰則

第三十七條　僞作ヲ爲シタル者及情ヲ知テ僞作物ヲ發賣シ又ハ頒布シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條　第十八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條　第二十條及第三十條第二項ノ規定ニ違反シ出所ヲ明示セスシテ複製シタル者竝第十三條第四項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條　著作者ニ非サル者ノ氏名稱號ヲ附シテ著作物ヲ發行シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條　著作權ノ消滅シタル著作物ト雖之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其ノ題號ヲ改メ若ハ著作者ノ氏名、稱號ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作物ト詐稱シテ發行シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條　僞僞ノ登錄ヲ受ケタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條　僞作物及專ラ僞作ノ用ニ供シタル器械器具ハ僞作者、印刷者、發賣者及頒布者ノ所有ニ在ル場合ニ限リ之ヲ沒收ス

第四十四條　本章ニ規定シタル罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス但シ第三十八條ノ場合ニ於テ著作者ノ死亡シタルトキ竝第四十條乃至第四十二條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條　本章ノ罪ニ對スル公訴ノ時效ハ二年ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第四章　附則

第四十六條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十六年法律第十六號版權法明治二十年勅令第七十八號脚本樂譜條例明治二十年勅令第七十九號寫眞版權條例ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十七條　本法施行前ニ著作權ノ消滅セサル著作物ハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ保護ヲ享有ス

第四十八條　本法施行前僞作ト認メラレサリシ複製物ニシテ既ニ複製シタルモノ又ハ複製ニ著手シタルモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

前項ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ノ現存スルトキハ本法施行後五年間仍其ノ複製ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得

第四十九條　本法施行前翻譯シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ僞作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得但シ其ノ翻譯物ハ本法施行後七年內ニ發行スルコトヲ要ス

前項ノ翻譯物ハ發行後五年間仍之ヲ複製スルコトヲ得

第五十條　本法施行前既ニ興行シ若ハ興行ニ著手シ其ノ當時ニ於テ僞作ト認メラレサリシモノハ本法施行後五年間仍之ヲ興行スルコトヲ得

第五十一條　第四十八條乃至第五十條ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル手續ヲ履行スルニ非サレハ其ノ複製物ヲ發賣頒布シ又ハ興行スルコトヲ得ス

第五十二條　本法ハ建築物ニ適用セス

●著作權者不明ノ著作物ニ關スル件

（明治三十二年六月二十八日內務省令第二十七號）

著作權者不明ノ著作物ニ關スル件左ノ通之ヲ定ム

著作權法第二十七條ニ依リ著作物ヲ發行又ハ興行セントスル者ハ其ノ由著作物ノ題號及著作者ノ氏名稱號等ヲ官報及東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙竝ニ著作者ノ氏名住所明ナル場合ハ其ノ居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告スヘシ

前項期日ノ最終日ヨリ六箇月以內ニ著作權者ノ出テサルトキハ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得

著作權者不明ノ著作物ニ關スル件

●著作權登錄ニ關スル規定

（明治三十二年六月二十八日 内務省令第二十八號）

著作權登錄ニ關スル規定左ノ通之ヲ定ム

第一條　著作權法第十五條ニ依リ登錄ヲ受クントスル者ハ内務省ニ願出ヘシ

第二條　登錄願ハ著作權法第十五條第一項ノ場合ニ在リテハ第一書式、第四項ノ場合ニ在リテハ第二書式ニ依リ且ツ著作物ノ明細書ヲ添付スヘシ

明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スルヲ要ス

一　著作物ノ題號

二　著作者ノ氏名稱號（無名著作物ニ在リテハ之ヲ要セス）

三　著作及發行若クハ興行ノ年月日

四　著作物ノ體樣（著作物ノ體樣ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナル場合ハ其圖面）

五　無名又ハ變名著作物ノ著作者ノ實名登錄ニシテ前登錄ヲ受ケタル場合ニ在リテハ前登錄ノ年月日

第三條　著作權ニ關スル登錄簿ハ内務省ニ備置キ内務大臣ハ第一條ノ願出アル毎ニ之ヲ登錄シテ官報ニ公告ス

第四條　何人ト雖モ登錄簿ノ閲覽又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ下附ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲナス者ハ著作權登錄ノ年月日若クハ登錄番號ヲ記シ願書ヲ差出シ且ツ手數料金參拾錢ヲ納ムヘシ

前項ノ手數料ハ收入印紙ヲ用ヰルモノトス

第五條　登錄簿ノ閲覽ハ内務大臣定ムル所ノ期日ニ從ヒ官吏ノ面前ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第一書式

（甲）著作權登錄願

一　著作物ノ題號　冊（箇）數

著作權登錄ニ關スル規定

一　此登錄稅金何圓也

收入印紙

右著作權登錄相成度此段相願候也

年　月　日　著作權者(又ハ發行者)氏　住所及原籍　名　印

内務大臣宛

(乙)　著作權讓渡(賣入)登錄願

一　著作物ノ題號　冊(箇)數

此登錄稅金何圓也

收入印紙

右著作物ハ今般誰ヨリ誰ニ讓渡(賣入)候間登錄相成度雙方連署ヲ以テ此段相願候也

年　月　日　讓渡(賣入)人　氏　名　印　住所及原籍

讓受(賣入)人　氏　名　印　住所及原籍

第二書式

内務大臣宛

實名登錄願

一　著作物ノ題號　冊(箇)數

此登錄稅金何圓也

收入印紙

右著作物ハ誰ニ何(稱號)著作ト云テ(無名ニテ)發行者誰(氏名)ノ名義ヲ以テ著作權登錄ニ關スル規定

發行候處今般左記ノ通實名ノ登錄相受度發行者連署ヲ以テ此段相願候也

年　月　日

住所及原籍
著作者　氏　　名　印
住所及原籍
發行者　氏　　名　印

内務大臣宛

●著作權ニ關スル登錄簿閲覽日

（明治三十二年六月二十八日　内務省告示第七十三號）

著作權ニ關スル登錄簿ハ左ノ日時ニ於テ閲覽セシムルモノトス

一　毎水曜日　午前十時ヨリ午後三時迄（祝日ハ除ク）

●地租條例

（明治十七年三月十五日　第七號布告）

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年（七月）第三百七十二號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ抵觸スルモノハ廢止スル事（第一）

但東京府管轄伊豆七島小笠原島「函館縣」「沖縄縣」「札幌縣」「根室縣」ハ當分從前ノ通タルベシ（第二）

地租條例（別冊）

第一條　地租ハ地價百分ノ三箇半ヲ以テ一年ノ定率トス（第一）

明治三十三年分ヨリ同三十六年分迄地租ハ地價千分ノ八市街宅地地租ニ於テ地價百分ノ二箇半ヲ增徵スル事（三十二年法律第三十三號ヲ以テ追加）

但本條例ニ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ（二十二年法律第三十號ヲ以テ但書改正）

第二條　地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ增減セザルモノトス（第二）

第三條　有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス（第三）

著作權ニ關スル登錄簿閲覽日　地租條例

第三第一類ニ田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地

第二第二類ニ池沼、山林、牧場、原野、雜種地（同上）

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ニ爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ヲ山崩、川闕、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條　公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用惡水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地、禁伐林及公衆ノ用ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス（同上）

第五條　土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以テ歩ト爲シ三拾歩ヲ畝ト爲シ拾畝ヲ段ト爲シ拾段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ拾分壹ヲ合ト爲シ合ノ拾分壹ヲ勺ト爲ス

第六條　地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス（同上）

第七條　地價ハ地目變換、開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキニ非レハ之ヲ修正セス（同上）

第八條　一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條　地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム

第十條　地目ヲ變換シ若クハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキハ地方廳ニ届出ヘシ（同上）

地目變換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス（同上法律ヲ以テ追加）

第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノハ五年間其地價ヲ据置六年目ニ至リ之ヲ修正ス（同上）

第十一條　免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條　地租ハ土地臺帳記名者ヨリ徵收ス但質入ノ土地ハ其質取主ニ於テ之

[illegible]ヲ納ムヘシ(同上法律ヲ以テ改正)[illegible]

第十三條　有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓地、禁伐林ト爲ストキハ其地租ハ許可又ハ命令ヲ受ケタル月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地及公衆ノ用ニ供スル道路ト爲ストキハ其地租ハ工事著手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス(同上)[illegible]

免租地ヲ有租地ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得シ翌月分ヨリ月割ヲ以テ徵收ス(同上)[illegible]

第十四條　地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス(同上)[illegible]

第十五條　荒地又ハ新開地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス(同上)

第十六條　開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ屆出ヘシ(同上)[illegible]

前項ノ開墾地ハ開墾著手ノ年ヨリ十年目ニ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス」

十年以內ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ願出鍬下年期ノ許可ヲ受クヘシ鍬下年期ハ三十年以內トス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス[illegible]

官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙[illegible]ホ十年以內ノ鍬下年期ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ハ五十年以內ノ新開免租年期ヲ許可ス

耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞役ヲ要スルモノハ本條第三項ニ準シ三十年以內ノ地價據置年期ヲ許可スルヨトアルヘシ[illegible]

第十七條　(同上法律ヲ以テ削除)[illegible]

第十八條　第十六條第三項第四項第五項ノ年期明ニ至リ事業成功ニ至ラサルモノハ更ニ二十年以內ノ繼年期ヲ許可ス(同上ヲ法律ヲ以テ改正)[illegible]

第十九條　鍬下年期明地價據置年期明新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ[illegible]修正ス(同上)[illegible]

地租條例

第二十條　荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス（同上）

海嘯ノ爲メ潮水侵入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアルベシ（同上）

第二十一條　荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス（同上）

第二十二條　低價年期明ニ至リ尚ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム（同上）

第二十三條　免租年期明ニ至リ尚ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十四條第二十三條ニ依リ處分ス（同上）

第二十四條　川成、海成、湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尚ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖ニ歸スルモノトス（同上）

第二十五條　土地ヲ欺隱シ地租ヲ逋脫スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス（同上法律ヲ以テ但書改正）

第二十六條　第十一條ニ違犯スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ且現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス（同上法律ヲ以テ改正）

第二十七條　第十條第二項第十六條第一項ニ違犯スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲サザルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租增額ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス（同上）

第二十八條　第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人、小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徵ス

地租條例

第二十九條　第二十五條第二十六條第二十七條第三十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徵スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシムル事

●地租條例施行規則（明治三十二年三月三十一日勅令第百十一號）

朕地租條例施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地租條例施行規則

第一條　土地ニハ番號ヲ付シ每筆其ノ地價ヲ定ム

第二條　一筆ノ土地中一部分左ノ事項ニ該當スルトキハ之ヲ分割ス

一　別地目トナルトキ

二　有租地ニシテ免租地トナルトキ

三　免租地ニシテ有租地トナルトキ

四　所有者ヲ異ニスルトキ

五　賞權ノ目的トナルトキ

第三條　地租條例第四條ニ依リ地租ヲ免スヘキ公立學校地、鄉村社地ハ借地ニアラサルモノニ限ル

第四條　第一類地ヲ第二類地ニ變換スルモノヲ地類變換ト謂フ

第五條　地目變換又ハ地類變換ノ後五年以內ニ於テ更ニ地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ再度ノ變換ヨリ六年目ニ至リ其ノ地目ニ對スル修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第六條　地目變換ノ後五年以內ニ於テ開墾ヲ爲ストキハ開墾著手ノ年ヨリ十年目又ハ鍬下年期明ニ至リ其ノ成功部分ノ地價ヲ修正シテ地租ヲ徵收ス

地類變換ヲ爲シタル後五年以內ニ於テ再ヒ第一類地トナストキハ變換ヲ取消シタルモノトス其ノ當初ノ地目ト異リタル第一類地ト爲ストキハ地目變換ヲ爲シタルモノトス

第七條　開墾著手後十年以內又ハ鍬下年期中ニ於テ地目ヲ變換シタルトキハ開墾ハ廢止シタルモノトシ變換ヨリ六年目ニ至リ其ノ地目ニ對スル修正地價ニ

依リ地租ヲ徴收ス[illegible]

第八條　地目變換若ハ地類變換ヲ爲シタル後五年以内ニ於テ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ變換ヲ取消シタルモノトス其ノ荒地免租年期明ニ至リ當初ノ地目ト異リタル土地ト爲シタルトキハ其ノ地目ニ依リ地價ヲ修正シ地租ヲ徴收ス[illegible]

第九條　地租條例第十條第一項ニ違犯スル者其ノ變換ヨリ六年目以後ニ於テ發覺シタルトキハ其ノ發覺ノ年ニ於テ現地目ニ依リ地價ヲ修正シ其ノ年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徴收ス

第十條　地目變換又ハ開墾ニシテ許可ヲ受クルコトヲ要スルモノハ許可出願ヲ法以テ届出ヲ看做ス[illegible]

第十一條　官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ニ付鍬下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ請ハサルトキハ其ノ地ノ現況ニ依リ地價ヲ[illegible]定ム[illegible]

第十二條　荒地免租年期中又ハ低價年期中土地ノ形狀ヲ變更スルコトアルモ地目變換地類變換又ハ開墾ト看做サス[illegible]

第十三條　荒地免租年期中又ハ低價年期中再ヒ荒地トナリタル免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ニ受ケタル荒地免租年期又ハ低價年期ハ消滅ス[illegible]

第十四條　地租條例第十六條第十八條第二十條第二十一條第二十三條第二十四條及森林法第五十六條ニ依リ鍬下年期、地價据置年期、免租年期、繼年期又ハ低價年期ヲ受ケシ者ハ稅務署長ニ願出ツヘシ(三十五年勅令第二百五十三號ヲ以テ稅務管理局長ヲ稅務署長ニ改ム)

第十五條　左ノ場合ニ於テハ所有者ハ稅務署長ニ届出ツヘシ(同上)

一　有租地ヲ用惡水路、溜池、堤塘、井溝、鐵道用地、公衆ノ用ニ供スル道路、水道用地及傳染病院、隔離病舍、隔離所、消毒所ノ敷地ト爲ストキ

二　地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキ、開墾成功シタルトキ又ハ開墾ヲ廢止シタルトキ

三　開墾ヲ爲サムトスルトキ、

四　官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ニ付鍬下年期又ハ新開免租年期ヲ請ハサルトキ

五　鍬下年期明ル地價据置年期明ル新開免租年期明ル荒地免租年期明ル低價年期明ニ至リタルトキ

六　數筆ノ土地ヲ合併シ又ハ一筆ノ土地ヲ分割セムトスルトキ

前項ノ場合ニ於テ地價ノ設定又ハ修正ヲ要スルトキハ實地ノ情況ニ依リ近傍類地ト其ノ地力ヲ比較シ相當ノ地位等級ヲ見積リ土地ノ測量圖ト共ニ書面ヲ差出スヘシ

第十六條　地租ヲ納ムヘキ者其ノ所有土地所在地ノ市區町村内ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ地租ニ關スル事務ヲ管理セシムル爲其ノ市區町村内ニ住居スル者ヲ納稅管理人ト爲シ其ノ市區町村長又ハ戸長ニ申告スヘシ

●土地臺帳規則

（明治二十二年三月二十二日勅令第三十九號）

朕土地臺帳規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土地臺帳規則

第一條　土地臺帳ハ地租ニ關スル事項ヲ登錄ス

第二條　市ノ土地臺帳ハ府縣廳ニ於テ町村ノ土地臺帳ハ島廳郡役所ニ於テ之ヲ設ケ其事務ヲ取扱フヘシ

第三條　登記所ニ於テ土地所有ノ移轉及質入ノ登記ヲ爲シタルトキハ土地臺帳所管廳ニ通知スヘシ

第四條　土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者ハ土地一筆ニ付金貳錢ノ割合ヲ以テ手數料ヲ納ムヘシ

第五條　地券ニ記載ノ事項異動ヲ生セサルモノハ其地券ヲ以テ前條ノ謄本ト見做スコトヲ得

第六條　本規則ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七條　市制ノ施行ニ至ラサル土地ニ於テハ區ニ屬スル土地臺帳ハ區役所ニ於テ其取扱ヲ爲スヘシ

土地臺帳規則施行細則

（明治二十二年四月一日大藏省令第六號）

勅令第三十九號土地臺帳規則施行細則左ノ通相定ム

土地臺帳規則施行細則

第一條　土地臺帳ハ市町村ニ區別シ土地ノ字番號地目段別等級地價地租所有者及賃取主ノ住所氏名ヲ登錄スヘシ

第二條　土地臺帳記載ノ所有者賃取主ノ住所氏名ニ異動ヲ生スルトキハ其時時之ヲ屆出ヘシ

第三條　土地臺帳ノ謄本ヲ請求セントスルモノハ其請求書ニ手數料ヲ添ヘ市ハ府縣廳町村ハ島廳郡役所ニ申出ヘシ

謄本ハ郵便ヲ以テ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ返信料ニ相當スル郵便切手ヲ添送スルコトヲ要ス（三十三年大藏省令第二號ヲ以テ本項追加）

第四條　土地臺帳ノ謄本ヲ請求シタルトキハ左ノ雛形ノ如ク記載シ之ヲ下付スヘシ（三十四年大藏省令第二十四號ヲ以テ雛形改正）

土地臺帳謄本

郡市町村	大字	字	地番	地目	段別又ハ坪數	地價	地租	事故	所有者住所氏名

年　月　日　何稅務署印

同一人ニシテ二年以上ノ謄本ヲ請求シタルトキハ同一用紙ニ連記スルコトヲ得但シ請求者ニ於テ毎年各別ノ謄本ヲ請求シタルトキハ此ノ限ニ在ラス（同

[illegible]ハ以テ本項追加）[illegible]

第五條　既登記土地所有權ノ移轉又ハ質入又ハ登記所ニ通知アリタルモノニアラサレハ之ヲ登錄セス但シ相續ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス（三十三年大藏省令第二十七號ヲ以テ追加三十四年大藏省令第十號ヲ以テ本條中改正）

●宅地組換法（明治三十二年三月十三日　法律第六十二號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル宅地組換法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

宅地組換法

第一條　郡村宅地ヲ市街宅地ニ、市街宅地ヲ郡村宅地ニ組換ヲ要スルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム（[illegible]）

第二條　前條ニ依リ地目ヲ組換ヘタル土地ハ其ノ年ヨリ組換地目ノ地租定率ニ依リ其ノ地租ヲ徵收ス（[illegible]）

●所得稅法（明治三十二年二月十日　法律第十七號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル所得稅法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

所得稅法

第一條　帝國內此ノ法律施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一箇年以上居所ヲ有スル者ハ此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條　前條ニ該當セサル者此ノ法律施行地ニ資產營業又ハ職業ヲ有シ若ハ公債社債ノ利子支拂ヲ受クルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス（三十四年法律第十七號ヲ以テ本條中改正）

第三條　所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

第一種　法人ノ所得　千分ノ二十五

第二種　此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債ノ利子　千分ノ二十

第三種　前各種ニ屬セサル所得

十萬圓以上　千分ノ五十五
五萬圓以上　千分ノ五十
三萬圓以上　千分ノ四十五
二萬圓以上　千分ノ四十
一萬五千圓以上　千分ノ三十五
一萬圓以上　千分ノ三十
五千圓以上　千分ノ二十五
三千圓以上　千分ノ二十
二千圓以上　千分ノ十七
千圓以上　千分ノ十五
五百圓以上　千分ノ十二
三百圓以上　千分ノ十

戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ第三種ニ限リ之ヲ合算シ其ノ總額ニ依リ本條ノ稅率ヲ定ム戶主ト別居スル家族二人以上同居スルトキ亦同シ

第四條　所得ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ算定ス

一　第一種ノ所得ハ各事業年度總益金ヨリ同年度總損金、前年度繰越金及保險責任準備金ヲ控除シタルモノニ依ル但シ第二條ニ該當スル法人ノ所得ハ此ノ法律施行地ニ於ケル資產又ハ營業ヨリ生スル各事業年度ノ益金ヨリ同年度損金ヲ控除シタルモノニ依ル

二　第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル

三　第三種ノ所得ハ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル豫算年額ニ依ル但シ此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケサル公債社債ノ利子、營業ニ非サル貸金、預金ノ利子、此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル法人ヨリ受ケタル配當金、俸給、給料、手當金、歲費、年金、恩給金ハ其ノ收入額ノ豫算年額ニ依ル山林ノ所得ハ前年ノ所得ニ依ル田畑ノ所得ハ前三箇年間所得平

均高ヲ以テ算出スベシ(三十四年法律第十七號ヲ以テ本號中改正)

前項第一號ノ場合ニ於テ益金中此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケタル配當金及此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケタル公債社債ノ利子アルトキハ之ヲ控除ス

第五條　左ニ掲ク所得ニハ所得稅ヲ課セス

一　軍人從軍中ニ係ル俸給

二　扶助料及傷痍疾病者ノ恩給

三　旅費學資金及法定扶養料

四　營利ヲ目的トセサル法人ノ所得

五　營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

六　外國又ハ此ノ法律ヲ施行セサル地ニ於ケル資產營業又ハ職業ニ依ル所得

但シ此ノ法律施行地ニ本店ヲ有スル法人ノ所得ヲ除ク

七　此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受クル配當金及割賦賞與金(同上ヲ以テ本號中追加)

第六條　第三種ノ所得ハ三百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ課セス但シ第三條第二項ノ場合ニ於テ其ノ合算額三百圓ニ滿ツルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條　納稅義務アル法人ハ各事業年度毎ニ損益計算書ヲ政府ニ提出スベシ但シ第三條ニ該當スル法人ハ各事業年度毎ニ此ノ法律施行地ニ於ケル資產又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シ其ノ計算書ヲ政府ニ提出スベシ

第八條　第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ毎年四月中ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スベシ

第九條　第一種ノ所得金額ハ損益計算書ヲ調査シ政府之ヲ決定シ第三種ノ所得金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府之ヲ決定ス

調査委員會閉會後第三種ノ所得アル者新ニ納稅義務アルコトヲ申出タルトキハ政府其ノ所得金額ヲ決定ス(三十四年法律第十七號ヲ以テ本項追加)

第十條　稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納稅義務者ヲ調査シ納稅義務アリト認ム

ル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ製シテ之ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

第十一條　各稅務署所轄內ニ所得調査委員會ヲ置ク

調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　調査委員ハ調査委員選擧人之ヲ選擧ス

第十三條　調査委員ノ選擧區域ハ稅務署ノ管轄區域ニ依ル

調査委員選擧人ノ選擧區域ハ市町村ノ區域ニ依リ東京市京都市大阪市札幌區函館區ニ在テハ區ノ區域ニ依ル

第十四條　選擧區域內ニ住居シ第八條ノ申告ヲ爲シタル者ハ調査委員選擧人ヲ選擧シ又ハ調査委員若ハ調査委員選擧人ニ選擧セラルルコトヲ得但シ左ニ記載スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　無能力者

二　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ルマテノ者

三　國稅滯納處分ヲ受ケタル後一箇年ヲ經サル者

四　刑務公權及停止公權者

五　禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ルマテノ者

第十六條　第四十六條ニ依リ處罰セラレタル後五箇年ヲ經サル者

第十五條　調査委員選擧人ノ定數ハ其ノ選擧區域內ニ於ケル第八條ノ申告ヲ爲シタル者十人ニ付一人トス但シ申告者二百人以上ナルトキハ二十人ニ止メ申告者十人未滿ナルトキハ一人トス

第十六條　調査委員選擧人ノ選擧事務ハ市區町村長又ハ戶長之ヲ執行シ調査委員ノ選擧事務ハ稅務署長之ヲ執行ス

第十七條　稅務署長ハ調査委員選擧人ノ選擧期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戸長ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選擧期日七日前ニ其ノ旨ヲ公示スヘシ

第十八條　選擧ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

第十九條　選擧ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　調査委員選擧人ノ選擧終了シタルトキハ市區町村長又ハ戸長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十一條　稅務署長ハ選擧期日ヲ定メ少クトモ七日前ニ公示シ調査委員及之ト同數ノ補闕員ノ選擧ヲ行ハシムヘシ

前項ノ選擧ニ關シテハ第十八條及ヒ第十九條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條　調査委員及補闕員ノ選擧終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十三條　調査委員及補闕員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第二十四條　調査委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ其ノ半數ヲ改選ス但シ第一回ノ改選期ニ於テハ抽籤ヲ以テ其ノ退任者ヲ定ム

補闕員ハ二年毎ニ之ヲ改選スルトキハ投票ノ數最モ多キ補闕員ヨリ順次之ヲ補充ス

調査委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

但シ投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

補闕員ヨリ調査委員トナリタル者ノ任期ハ前任者ノ殘期間トス

第二十五條　調査委員會ハ遲クトモ毎年八月一日マテニ開會スルヲ要ス

第二十六條　調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第二十七條　調査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選擧スヘシ

第二十八條　調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニアラサレハ決議

[illegible]スルコトヲ得ス[illegible]ハ委員ハ[illegible]
議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依
[illegible]
第二十九條　調査委員ハ自己ノ所得金ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス
第三十條　八月三十一日マテニ調査委員會成立セサルカ又ハ調査結了セサルト
キハ所得金額調査未濟ノ者ニ付テハ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定ス
第三十一條　政府ハ調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ再調査ニ付ス
仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調査ニ付シタル日ヨリ十五日以内ニ調
査結了セサルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス
第三十二條　稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコ
[illegible]ヲ得[illegible]
第三十三條　調査委員ニハ日當及旅費ヲ支給ス[illegible]
第三十四條　稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ

納稅義務アリト認ムル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ
得[illegible]
第三十五條　政府ハ第一種及第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義
務者ニ通知スヘシ
第三十六條　納稅義務者政府ノ通知シタル所得金額ニ對シテ異議アルトキハ通
知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ申出テ審査ヲ求ム
ルコトヲ得
第三十七條　前條ノ請求アリタルトキハ審査委員會ヲ開キ其ノ決議ニ依リ政府
之ヲ決定ス
審査委員會ハ收稅官吏三人調査委員四人ヲ以テ之ヲ組織ス
審査委員會ノ所屬區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
審査委員會ハ前條ノ申立ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問ス
ルコトヲ得[illegible]

第三十一條ノ規定ハ之ヲ審査委員會ノ決議ニ準用ス（三十四年法律第十七號ヲ以テ本項追加）

第三十八條　納稅義務者ハ第三十六條ノ審査ヲ求メタル場合ト雖通知ヲ受ケタル所得金額ニ依リ稅金ヲ納ムベシ

第三十九條　所得金額ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第四十條　山林ノ所得ヲ除ク外第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者所得金額四分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ政府ニ申出テ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過クルトキハ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得ス

所得金額決定後贈與ヲ爲シタル爲所得金額ヲ減損シタル場合ニハ前項ヲ適用セス（三十四年法律第十七號ヲ以テ改正）

第四十一條　前條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其ノ所得金額ヲ査覈シ決定額ニ對シ四分ノ一以上ノ減損アリタルトキハ所得金額ヲ更訂ス

第四十二條　第一種ノ所得ニ付テハ各事業年度毎ニ所得稅ヲ徵收ス

第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徵收シ其ノ都度之ヲ政府ニ納ムベシ

第三種ノ所得ニ付テハ所得稅ノ年額ヲ二分シ其ノ年九月及翌年三月之ヲ徵收ス但シ納稅者納稅管理人ヲ定メスシテ帝國外ニ住所若ハ居所ヲ移ストキハ其ノ際直ニ其ノ所得稅ヲ徵收スルコトヲ得

第四十三條ノ一　第四十條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其ノ確定ニ至ルマテ稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四十三條ノ二　第三種ノ所得ニ付二箇以上ノ稅務署管内ニ於テ所得金額ノ決定アリタルトキハ政府ハ納稅者ノ住所地若住所ナキトキハ居所地以外ニ於ケル所得金額ノ決定ヲ取消スベシ（三十四年法律第十七號ヲ以テ追加）

第四十四條　第三種ノ所得ニ係ル所得稅ハ本人住所ノ地ヲ以テ納稅地トシ住所

ナキトキハ居所ノ地ヲ以テ納稅地トス但シ納稅者ハ申告シテ住所又ハ居所以外ノ地ニ於テ所得稅ヲ納ムルコトヲ得

此ノ法律施行地ニ住所又ハ居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納稅地ヲ指定ス

第四十五條　納稅義務者納稅地ニ現住セサルトキハ其ノ所得稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲ニ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ

第四十六條　所得金額ヲ隱蔽シテ逃稅シタル者ハ其ノ逃稅金高三倍ノ罰金ニ處ス但自首スル者ハ其ノ稅金ヲ追徵シ其ノ罪ヲ問ハス

第四十七條　所得ノ調査又ハ審査ニ干與スル者其ノ調査又ハ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩シタルトキハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フモノトス

附　則

第四十八條　此ノ法律ハ明治三十二年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

第四十九條　明治二十年勅令第五號所得稅法ハ明治三十一年分所得稅限リ廢止ス

第五十條　此ノ法律ハ沖繩縣小笠原島及伊豆七島ニ當分之ヲ施行セス

◉所得稅法施行規則

（明治三十二年三月二十九日勅令第七十八號）

朕所得稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

所得稅法施行規則

第一條　所得稅法第四條第一項第三號ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキモノハ種苗蠶種肥料ノ購買費、家畜其ノ他ノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費、其ノ借入料、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他其ノ收入ヲ得ルニ必要ナル經費ニ限ル但シ家事上ノ費用及之ト關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第二條　第三種ノ所得金額ハ申告、調査又ハ決定當時ノ現況ニ依リ所得稅法第

五條ノ所得ヲ除キ之ヲ算出スヘシ

第三條　納稅義務アル法人ハ毎事業年度通常總會後七日以內ニ損益計算書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第四條　第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ所得ノ種類及金額ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

所得稅法第三條第二項ニ依リ同居者ノ所得ヲ合算スヘキ場合ニ於テハ其ノ所得ヲ區分シ同時ニ之ヲ申告スヘシ

第五條　所得調査委員ノ定數ハ五人トス但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ大藏大臣ハ之ヲ增減スルコトヲ得

第六條　稅務署長ハ調査委員選擧人ノ選擧前選擧資格ヲ有スル者ノ住所氏名ヲ其ノ市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ

第七條　調査委員選擧人ノ選擧ヲ執行スルトキハ市區町村長又ハ戶長ハ其ノ選擧資格ヲ有スル者二人ヲ選任シ投票ニ立會ハシムヘシ

第八條　調査委員ノ選擧ヲ執行スルトキハ稅務署長ハ調査委員選擧人二人ヲ選任シ投票ニ立會ハシムヘシ

第九條　調査委員選擧人及調査委員ノ選擧ニ於テ投票ニ記載シタル人員其ノ選擧スヘキ定數ニ超エタルトキハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次棄却スヘシ

第十條　調査委員又ハ補闕員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ稅務署長ニ於テ已ムヲ得スト認ムヘキ事故アル者ニ限ル（三十五年勅令第二百五十四號ヲ以テ本條中改正）

第十一條　調査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル調査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

第十二條　調査委員會ノ決議ハ會長ヨリ之ヲ稅務署長ニ通知スヘシ

第十三條　稅務署長ハ所得稅法第九條第三十條第三十一條ニ依リ所得金額ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ（三十五年勅令第二百五十四號ヲ以テ本條中改正）

第十四條　所得稅法第三十六條ニ依リ審査ヲ求メムトスル者ハ事由ヲ具シ證憑書類ヲ添ヘ稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ツヘシ(同上)

第十五條　各稅務監督局所轄內ニ審査委員會ヲ置ク(同上)

第十六條　收稅官吏ヲ以テスヘキ審査委員ハ大藏大臣之ヲ命シ調査委員ヲ以テスヘキ審査委員ハ稅務監督局所轄內ノ調査委員之ヲ選擧ス(同上)

第十七條　審査委員ノ選擧事務ハ稅務監督局長之ヲ執行ス(同上)

第十八條　審査委員ノ選擧ヲ執行セムトスルトキハ稅務監督局長選擧期日ヲ定メ所轄內調査委員ノ氏名ト共ニ之ヲ各調査委員ニ通知スヘシ(同上)

第十九條　選擧ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ稅務管理局ニ差出スヘシ

第二十條　稅務監督局長ハ所轄內調査委員二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ(三十五年勅令第二百五十四號ヲ以テ本條中改正)

第二十一條　選擧ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條ノ二　審査委員ノ選擧終了シタルトキハ稅務監督局長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ(三十五年勅令第二百五十四號ヲ以テ本條中改正)

第二十二條ノ二　審査委員ハ稅務監督局所轄內ニ於テ調査委員ノ改選アル毎ニ之ヲ改選ス(同上ヲ以テ本條追加)

第二十三條　審査委員會ハ稅務監督局長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク(同上ヲ以テ本條中改正)

第二十四條　審査委員會ハ改選後第一回開會ノ初ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選擧スヘシ(同上)

第二十五條　審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十六條　審査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル審査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

第二十七條　審査委員ハ自己ノ所得金ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第二十八條　稅務監督局長又ハ其ノ代理官ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得（三十五年勅令第二百五十四號ヲ以テ本條中改正）

第二十九條　審査委員會ノ決議ハ會長ヨリ之ヲ稅務監督局長ニ通知スヘシ（同上）

第三十條　稅務監督局長ハ所得稅法第三十七條ニ依リ所得金額ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ（同上）

第三十一條　納稅義務アル法人損益計算書ヲ提出セサルトキハ政府其ノ損益ヲ調査シ其ノ所得金額ヲ定ム

第三十二條　所得稅ハ所得稅法第九條第三十條第三十一條ニ依ル決定金額ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ決定金額ハ所得稅法第三十七條第三十九條第四十一條ノ結果ニ依ルノ外之ヲ變更セス

第三十三條　所得稅法第三條第二項ノ場合ニ於テ同居者所得金額決定後別居スルモ所得金額決定當時ノ稅率ニ依リ其ノ年ノ所得稅ヲ納ムヘシ

第三十四條　公ニ募集シタル公債社債ノ利子ヲ支拂フ者ハ支拂ノ際所得稅金額ヲ控除スヘシ

第三十五條　營利ヲ目的トセサル法人ニシテ無記名ノ公債證券又ハ社債券ヲ取得シタルトキハ其ノ發行者又ハ讓渡人ノ證明ヲ得テ之ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通知シ其ノ所有ヲ證明スヘシ但シ從來無記名ノ公債證券又ハ社債券ヲ所有スル者ハ本令施行ノ際利子支拂ノ取扱所ニ通知シ便宜ノ方法ニ依リ其ノ所有ヲ證明スヘシ

第三十六條　府縣郡市區町村其ノ他公共ノ團體若ハ組合又ハ會社ニ於テ公債社債ノ利子ニ付所得稅ヲ徵收シタルトキハ直チニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ其

ノ所在地ノ金庫ニ拂込ムヘシ

國債利子支拂ノ取扱銀行ニ於テ國債ノ利子ニ付所得稅ヲ徵收シタルトキハ大藏大臣ノ命令ニ依リ之ヲ本店所在地ノ金庫ニ拂込ムヘシ

第三十七條　所得稅法第四十條ノ申出アリタルトキハ稅務署長ハ其ノ年所得ノ實況ヲ調査シ所得金額四分ノ一以上ノ減損アルトキハ所得金額ヲ更訂シテ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ（三十五年勅令第二百五十四號ヲ以テ本條中改正）

第三十八條　前期納稅後所得金額ノ變更ニ因リ所得稅金額ヲ減シタルトキ既納ノ稅金全額以上ナルトキハ其ノ超過額ヲ還付シ全額以下ナルトキハ後納期ニ於テ其ノ不足額ヲ徵收スヘシ

第三十九條　第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者納稅地ノ稅務署管轄以外ニ於テ所得ヲ取得スルトキハ納稅地ヲ其ノ地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第四十條　納稅義務者住所又ハ居所以外ノ地ニ於テ所得稅ヲ納メムトスルトキ又ハ所得稅法施行地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅地ヲ定メ其ノ地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第四十一條　納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其ノ旨新納稅地ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第四十二條　納稅義務者帝國外ニ住所若ハ居所ヲ移ストキハ其ノ旨稅務署ニ申告スヘシ

第四十三條　納稅義務者納稅管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ

●營業稅法（明治二十九年三月二十七日法律第三十三號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル營業稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

營業稅法

第一條　左ニ掲クル營業ヲ爲ス者ニハ營業稅ヲ課ス

一　物品販賣業

營業稅法

一銀行業
一保險業
一金錢貸付業
一物品貸付業
一製造業
一運送業
一倉庫業
一運河業
一機橋業
一船渠業
一船舶碇繫場業
一貨物陸揚場業
一鐵道業（三十五年法律第十八號ヲ以テ本號追加）

一土木請負業
一勞力請負業
一印刷業
一寫眞業
一席貸業
一旅人宿業
一料理店業
一公ナル周旋業
一代辨業
一仲立業
一仲買業

第二條　營業稅ヲ課スヘキ物品販賣業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ物品ハ卸賣又ハ小賣ヲ爲ス者ヲ謂フ

左ノ諸業ハ前項ニ該當セサルモ仍物品販賣業ト見做ス

一　一定ノ製造場ナク職工ヲ使役スルコトナク原料ヲ供給シ工錢ヲ支拂ヒ物品ヲ製造セシメテ販賣スル者

二　一定ノ製造場ヲ設ケス店頭ニ於テ物品ヲ製造シ主トシテ小賣ヲ爲ス者

三　牧場ニ非サル場所ニ於テ飼料ヲ購求シ家畜又ハ家禽ヲ飼養シ之ヲ賣リ又ハ鷄卵、牛乳等其ノ産物ヲ販賣スル者

四　魚介類ヲ養殖シテ之ヲ販賣スル者

五　動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノヲ販賣スル者

一箇年ノ賣上金額千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條ノ營業者其ノ製造場區域內ニ於テ製造品ヲ販賣シ及別ニ營業場ヲ設ケ其ノ製造品ノ卸賣營業ヲ爲スモ物品販賣業トセス

第三條　營業稅ヲ課スヘキ金錢貸付業及物品貸付業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ貸付ノ業ヲ營ム者ヲ謂フ普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ爲スモ亦同シ

[illegible]資本金額五百圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條　營業稅ヲ課スヘキ製造業ハ一定ノ製造場ヲ設ケ職工勞役者ヲ使役シテ物品ヲ製造シ又ハ物品製造ノ一部ヲ助成スル者ヲ謂フ

瓦斯電氣ノ供給ヲ爲ス者及器物、器械ノ修理ヲ爲シ又ハ穀物ヲ精白搗碎シ又ハ染物、洗濯ヲ爲ス者ハ前項製造業ト見做ス

資本金額五百圓未滿ノ者又ハ職工勞役者ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサル者ニ[illegible]ハ營業稅ヲ課セス[illegible]

第五條ノ一　運賃又ハ手數料ヲ受ケテ旅客貨物ノ運送ヲ爲シ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス者ヲ運送業トシテ營業稅ヲ課ス但シ雇人二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス[illegible]

第五條ノ二　私設鐵道法ニ依リ運送ノ業ヲ營ム者ヲ鐵道業トシテ營業稅ヲ課ス

（三十五年法律第十八號ヲ以テ追加）[illegible]

第六條　倉庫ヲ備ヘテ貨物ヲ預リ倉敷料其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受クル者ヲ倉庫業トシテ營業稅ヲ課ス

第七條　印刷業、寫眞業ニシテ職工雇入ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサル者及土木請負業、勞力請負業ニシテ請負金額一箇年千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第八條　貸料又ハ其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受ケ客室又ハ集會場ヲ貸ス者ヲ席貸業トシテ營業稅ヲ課ス但シ建物賃貸價格五十圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第九條　營業稅ヲ課スヘキ旅人宿業ハ飲食物ヲ供スルト否トニ拘ラス旅客ヲ宿泊セシメ又ハ人ヲ寄宿セシメ雇人三人以上ヲ使用スル者トス但シ木錢宿ニハ營業稅ヲ課セス

第十條　營業稅ヲ課スヘキ料理店業ハ雇人三人以上ヲ使用シ客室ヲ設ケテ飲食物ヲ販賣スル者トス

第十條ノ二　營業稅ヲ課スヘキ公ナル周旋業、代辯業、仲立業、仲買業ハ一箇年報償金額百圓以上ノ者トス（三十五法律第十八號ヲ以テ追加）

第十一條　左ニ掲クル營業ニハ營業稅ヲ課セス

一　政府ヨリ發行スル印紙、切手類ノ賣捌

二　自己ノ採掘又ハ採取シタル鑛物ノ販賣

三　度量衡ノ製作、修覆、販賣

第十二條　營業稅ハ左ノ課稅標準及稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

營業名	課稅標準	稅率
物品販賣業	賣上金額	卸賣ハ万分ノ五 小賣ハ万分ノ二十五
	建物賃貸價格	千分ノ四十
從業者		一人毎ニ金一圓
銀行業、保險業、金錢貸付業、物品貸付業	資本金額	千分ノ二
	建物賃貸價格	千分ノ四十
從業者		一人毎ニ金一圓

倉庫業（資本金額、建物賃貸價格、從業者）　千分ノ二、千分ノ三十、一人毎ニ金一圓

製造業、印刷業、寫眞業（資本金額、建物賃貸價格、從業者ノ内職工勞役者）　千分ノ一半、千分ノ四十、一人毎ニ金一圓、一人毎ニ金三十錢

運送業、運河業、機橋業、船渠業、船舶碇繫場業、貨物陸揚場業（資本金額、從業者）　千分ノ二半、一人毎ニ金一圓

鐵道業（收入金額、從業者）　千分ノ十、一人毎ニ金一圓（三十五年法律第十八號ヲ以テ本項追加）

土木請負業、勞力請負業（請負金額、從業者）　千分ノ二、一人毎ニ金一圓

席貸業、料理店業（建物賃貸價格、從業者）　千分ノ六十、一人毎ニ金一圓

旅人宿業（建物賃貸價格、從業者）　千分ノ四十、一人毎ニ金一圓

公ナル周旋業、代辨業、仲立業、仲買業（報償金額、從業者）　千分ノ十五、一人毎ニ金一圓（同上ヲ以テ本項中改正）

第十三條　此ノ稅法ニ依リ納稅義務ヲ有スル營業者ハ毎年一月三十一日迄ニ業名及課稅標準ヲ詳記シ政府ニ届出ヘシ但シ新ニ開業シタル者ハ其ノ際本條ノ届出ヲ爲スヘシ

營業者廢業シタルトキハ其際政府ニ届出ヘシ

第十四條　同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ第十二條ノ課稅標準ニ依リ各別ニ營業稅ヲ課ス但シ課稅標準トナルヘキモノヲ共通シテ使用スルトキハ其ノ一ニ就テ計算ス其ノ稅率異ナルトキハ重キニ從フ

第十五條　物品販賣業、土木請負業、勞力請負業、席貸業、旅人宿業、料理店業、公ナル周旋業、代辨業、仲立業、仲買業ハ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ營業稅ヲ課

ス

前項ニ掲ケサル營業ニシテ店舗其ノ他ノ營業場數箇所アルトキ其ノ資本ヲ區分シタルモノハ各別ニ營業稅ヲ課ス其ノ資本ヲ區分セサルモノハ合算シテ之ヲ課ス但シ內國ト外國トニ渉リ店舗其他ノ營業場數箇所アルトキ資本ヲ區分セサルモノハ內國ニ於ケル各店舗其ノ他ノ營業場ニ於テ使用スル資本金額ヲ見積リ內國ノ分ニ限リ各別ニ之ヲ課ス（三十二年法律第三十二號ヲ以テ但書追加）

第十六條　第十三條ニ依リ屆出ヘキ課稅標準ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ計算ス但シ新ニ開業シタルモノハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

一　資上金、收入金、請負金及報償金ハ前年中ノ總額ニ依ル但シ前年中ニ開業シタルモノハ豫算ニ依ル（三十五年法律第十八號ヲ以テ本號中追加）

二　資本金及建物賃貸價格ハ前年中ノ平均額ニ依ル

三　從業者ハ前年ニ於ケル最多數ノトキニ依ル

資本金額ノ算定方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　納稅義務ヲ有スル營業者第十三條ノ屆出ヲ爲ササルトキ又ハ其ノ屆出タル課稅標準ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其ノ課稅標準ヲ算定スルコトヲ得（同上ヲ以テ改正）

第十八條　建物賃貸價格ハ店舗其ノ他營業用ノ土地ト家屋ノ借料ニ相當スルモノトス但シ住居ニ供スルモノ其ノ他直接ニ營業ニ使用セサルモノアルモ同一區域內ニアリテ自己ノ所用ニ係ルモノハ營業用トシテ計算ス

借家ノ場合ニ於テハ何等ノ名義ヲ用ウルニ拘ラス土地、建物ノ貸借上借主ヨリ貸主ニ仕拂フモノヲ以テ建物賃貸價格ヲ計算ス

借家ニ非サル場合ニ於テハ近傍借家ノ借料　照準シテ建物賃貸價格ヲ定ム近傍ニ照準スヘキ借家ナキトキハ其ノ土地（家屋ノ時價ヲ各別ニ算定シ土地ハ其ノ百分ノ五、家屋ハ百分ノ十ヲ以テ其ノ賃貸價格ヲ定ム無償ノ借家ニ付テモ亦同シ（三十五年法律第十八號ヲ以テ條中削除）

第十九條　名義ノ何タルヲ問ハス總テ營業ニ從事スル者ハ從業者トシテ之ヲ計算ス但シ營業者ノ家族ヲ除ク

第二十條　營業稅ハ年額ヲ二分シ其ノ年五月、十一月ヲ以テ納期トス但シ廢業スルトキ未納ノ稅金ハ即納トス

第二十一條　新ニ營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ其ノ營業稅ヲ徵收ス

左ニ掲クル營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ尙三箇年間其ノ營業稅ヲ徵收セス但シ此ノ稅法施行以前ヨリ營業スル者ニシテ其ノ開業ノ翌年ヨリ三箇年ニ滿タサルトキハ本項ニ準據スルコトヲ得

銀行業、保險業、倉庫業、製造業、印刷業、運送業、運河業、棧橋業、船渠業、船舶碇繫場業、鐵道業（三十五年法律第十八號ヲ以テ本項中追加）

第二十二條　同一ノ場所ニ於テ六箇月以內ニ前ノ營業者ト同一ノ營業ヲ開始スル者ハ其ノ月ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十三條　營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムヘキ事實アルトキハ納期ニ於テ現ニ營業スル者ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十四條　營業者廢業スルトキハ其ノ廢業ノ月迄營業稅ヲ徵收ス但シ他ニ其ノ營業ヲ繼續スル者アルトキハ前條ニ依ル

第二十五條　第二十二條及第二十三條ノ場合ニ於テ前ノ營業者第二十一條ノ期間內ニアルトキハ其ノ期間ハ後ノ營業者ニ及フモノトス

第二十六條　政府ニ於テ課稅標準ヲ算定シタルトキハ之ヲ營業者ニ通知スヘシ（三十五年法律第十八號ヲ以テ條中改正）

第二十七條　前條ノ算定ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ申立テ審査ヲ求ムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セス（同上ヲ以テ條中改正）

第二十八條ノ一　前條ノ請求アリタルトキハ營業稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ政府之ヲ決定ス（同上ヲ以テ改正）

第二十八條ノ二　各稅務管理局所轄內ニ營業稅審査委員會ヲ置ク

審査委員ノ定數及審査委員會ノ會議ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

審査委員ハ商業會議所代表者及納稅義務ヲ有スル營業者中ヨリ大藏大臣之ヲ命ス(同上)

第二十八條ノ三　收稅官吏ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得(同上)

第二十八條ノ四　營業者第二十八條ノ一ノ決定ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得(同上)

第二十九條　左ノ場合ニ於テハ營業者ハ政府ニ其ノ由ヲ申立ツルコトヲ得

一　課稅ノ標準タル資本金額、資上金額、收入金額、請負金額、報償金額又ハ建物賃貸價格半額以上ヲ減シタルトキ(同上ヲ以テ本號中追加)

二　課稅ノ標準タル從業者ノ人員廂出入員二分ノ一以下ニ減シタルトキ

第三十條　政府ハ前條ノ申出ニ由リ營業者ノ狀況ニ照シ營業稅ヲ減額スルノ必要アリト認ムルトキハ翌年一月迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第三十一條　政府ハ第二十九條ノ申出ニ對シ翌年一月ニ於テ課稅標準ヲ査覈シ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ稅金ヲ減額スルコトヲ得

一　課稅ノ標準タル資上金額、收入金額、請負金額、報償金額ハ前々年中ノ總額資本金額、建物賃貸價格ハ前々年中ノ平均額ノ半額ニ達セサルトキ(三十五年法律第十八號ヲ以テ本號中追加)

二　課稅ノ標準タル從業者ノ人員其ノ最多數ノトキニ於テ廂出入員ノ二分ノ一ニ達セサルトキ

課稅標準ノ課稅最低限以下ニ減シタル場合ニ於テモ仍其ノ割合ヲ以テ稅金ヲ徵收ス

第三十二條　第一條ニ揭クル營業者ハ貨物ノ仕入、資上、受入、貸付、廻送、從業者ノ人員及營業ニ關スル金錢ノ出納ヲ明ニスル爲帳簿ヲ備ヘ營業上一切ノ事實ヲ記載スヘシ

第三十三條　收稅官吏ハ營業ニ關スル帳簿、物件ヲ檢査シ又ハ營業者ニ尋問ス

ルコトヲ得

第三十四條　第十三條ノ届出ヲ爲サス若ハ虚偽ノ届出ヲ爲シ又ハ故意ヲ以テ第三十二條ノ帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ一圓以上二圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其ノ脱税シタル者ハ脱税金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十五條　此ノ税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第三十六條　府縣ハ此ノ税法ニ依リ納税義務ヲ有スル營業者ノ營業ニ對シ本税十分ノ二以内ノ附加税ヲ課スルコトヲ得此ノ附加税ノ外府縣税又ハ地方税ヲ課スルコトヲ得ス

附則

第三十七條　此ノ税法ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

第三十八條　明治二十九年度ニ屬スル府縣税又ハ地方税ハ第三十六條ノ規定ニ依ルノ限ニ在ラス

明治二十九年度ニ屬スル府縣税又ハ地方税ノ賦課ヲ受ケタル業體ニ對スル此ノ税法ノ營業税ハ明治三十年ニ限リ年額四分ノ三ヲ徴收ス

第三十九條　第二十條五月ノ納期ハ明治三十年ニ限リ七月トス

第四十條　第十五條第二項但書ノ規定ハ此ノ法律施行地ト此ノ法律ヲ施行セサル地トニ渉リ店舗其ノ他ノ營業場數箇所アル場合ニ之ヲ準用ス（三十二年法律第三十二號ヲ以テ追加）

●營業税法施行規則

（明治二十九年七月二十日勅令第二百六十九號）

朕營業税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

營業税法施行規則

第一條　營業税法第一條ノ營業ヲ爲ス者ニシテ同法第二條以下ノ規定ニ依リ營業税ヲ課セラルヘキ者ハ其ノ店舗其ノ他ノ營業場所在地ノ税務署ニ同法第十

三條ノ届出ヲ爲スヘシ但シ同法第十九條第三項末段ノ場合ニ於テハ其ノ主タル店舗其ノ他ノ營業場所在地ノ稅務署ニ届出ヘシ（三十五年勅令第二百二十號ヲ以テ本令中地方長官ヲ稅務署ニ改ム）

左ニ掲クル者ハ同法第十三條第一項但書ニ依リ開業後十日以内ニ稅務署ニ新規開業ノ届出ヲ爲スヘシ

一　新ニ同法第一條ノ營業ヲ開始スル者

二　同法第十五條第三項末段ノ場合ニ該當セサル者ニシテ新ニ店舗其ノ他ノ營業場ヲ增設スル者

三　新ニ營業ノ種類ヲ增加スル者

第二條　同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ店舗其ノ他ノ營業場ノ同一ナルト否トヲ問ハス營業ノ種類並ニ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ區分シテ營業稅法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ但シ課稅標準ヒトナルヘキモノヲ數種ノ營業ニ共通シテ使用スル場合ニ於テハ稅率ノ最重キ營業、稅率等シキハ其ノ重ナル營業ノ一方ニ其ノ課稅標準ヲ計算スハシ

第三條　同一人ニシテ數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ニ於テ同種ノ營業ヲ爲ストキハ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ營業稅法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第四條　營業稅法第十五條第二項末段ニ依リ數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ合セテ營業稅ヲ課セラルヘキ場合ニ於テハ總テノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ通シテ同法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第五條　株式會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中ノ各月末ニ於ケル拂込株式金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス但シ保險會社ニ於ケル保險責任準備金ハ之ヲ除算ス（三十五年勅令第二百二十號ヲ以テ但書追加）

第六條　ノ一合資會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル出資金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス（同上ヲ以テ本條中改正）

第六條ノ二　株式合資會社ニ於テ課稅標準ト爲スヘキ資本金額ハ前年中ノ各月末ニ於ケル出資金額、拂込株式金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資產金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス（同上ヲ以テ追加）

第七條ノ一　合名會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル總社員ノ出資金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資產金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス（同上ヲ以テ改正）

第七條ノ二　株式會社、合資會社、株式合資會社又ハ合名會社ニ於テ營業稅法第一條ニ掲クル營業ト同條ニ掲ケサル營業トヲ兼營スルトキハ前四條ニ依リ算定シタル資本金額中ヨリ營業稅法第一條ニ掲ケサル營業ニ對スル見積資本金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅標準ト爲スヘキ資本金額トス（同上ヲ以テ追加）

第八條　一箇人ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ他ヨリ借入レタルト否トヲ問ハス前年中各月末ニ於ケル固定資本及運轉資本ノ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

前項固定資本ハ直接ニ營業ノ用ニ供スル土地、建物、築造物、船舶、諸器具、機械ノ價格ヲ計算ス其ノ價格ハ時價相當ノ見積金額ニ依ル

第九條　課稅標準額ヲ豫算スルトキハ届出當時ノ實況ニ依リ尙ホ過去將來ノ形情ヲ斟酌シテ之ヲ算出スヘシ

第十條　（三十五年勅令第二百二十號ヲ以テ削除）

第十一條　營業稅法第十八條第二項ノ場合ニ於テ借地料借家料ヲ支拂フニ金錢ニアラサル物品ヲ以テスルトキハ其ノ物品ノ時價ニ依リ之ヲ定ムヘシ

營業者借地ニ於テ自己ノ建物ヲ所有スルトキハ其ノ土地ハ營業稅法第十八條第二項ニ依リ建物ハ同條第三項ニ依リ其ノ賃貸價格ヲ計算ヘシ

營業者借家中ニ於テ其ノ建物ノ一部分ヲ所有スルトキハ自己所有ノ部分ハ營業稅法第十八條第三項ニ依リ其ノ建物賃貸價格ヲ計算スヘシ建物中雜作全部

ヲ借主ニ於テ所有スルトキ亦同シ

第十二條　從業者ハ營業主ヲ始メ店舗其ノ他ノ營業場ニ居住スルヤ否ヤ使役ノ常時タルヤ臨時タルヤヲ問ハス總テ直接ニ營業ニ從事スル者ヲ計算スヘシ但シ營業主ト同一戸籍内ニ在ル者ハ計算セス

第十三條　相續讓渡其ノ他原因ノ何タルヲ問ハス營業ヲ繼續スル者ハ其ノ繼續後十日以内ニ稅務署ニ其ノ旨ヲ屆出ヘシ

第十四條　營業者住所氏名ヲ變更シ又ハ店舗其ノ他ノ營業場ヲ移轉シタルトキハ十日以内ニ稅務署ニ其ノ旨ヲ屆出ヘシ其ノ移轉他ノ營業地方ニ渉ルトキハ移轉先ノ稅務署ニ屆出ヘシ（三十五年勅令第三百二十號ヲ以テ本條中改正）

第十五條　營業稅法第十五條第二項未段ニ該當スル場合ニシテ店舗其ノ他ノ營業場ヲ增設シタル者ハ其ノ增設後十日以内ニ其ノ旨ヲ稅務署ニ屆出ヘシ

第十六條　納稅義務アル營業者第一條ノ屆出ヲ爲ササルトキ又ハ其ノ屆出タル課稅標準ヲ不相當ト認ムルトキハ稅務管理局長ハ營業稅法第十六條ノ算定方法ニ依リ其ノ課稅標準ヲ算定スヘシ（三十五年勅令第二百二十號ヲ以テ改正）

第十七條　稅務管理局長前條ニ依リ課稅標準ヲ算定シタルトキハ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル營業者ハ稅務署ニ申出テ其ノ算定ノ說明ヲ求ムルコトヲ得（同上）

第十八條　前條ノ算定ニ對シ異議アル者審査ヲ求メントスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シ營業稅法第二十七條ニ期限内ニ稅務署ニ申出ヘシ（同上ヲ以テ條中改正）

第十九條　稅務管理局長課稅標準審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ營業稅審査委員會ニ諮問ヲ經テ課稅標準ヲ決定シ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第十七條第三項ヲ準用ス（同上ヲ以テ改正）

第二十條　審査委員ノ定數ハ五人トス（同上）

第二十一條　審査委員會ハ稅務管理局長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク（同上）會員ヲ選

第二十二條　審査委員會ハ毎年最初ノ開會ノ時ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選擧スベシ（同上）

第二十三條　審査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル審査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ（同上）

二十四條　審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル（同上）

第二十五條　審査委員ハ自己又ハ自己カ代表スル會社ノ課税標準ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス（同上）

第二十六條　營業者ヨリ營業税法第二十九條ノ申出アリタルトキハ税務署ハ課税標準額算定ノ方法ニ依リ其ノ年營業ノ實況ヲ調査シ同法第三十一條第一號又ハ同條第二號ニ該當スルトキハ其ノ課税標準額ノ全部ヲ改算スヘシ

第二十七條　營業者店舗其ノ他ノ營業場外ニ居住シ又ハ旅行シ店舗其ノ他ノ營業場ニ不在ナルトキハ營業税ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲ニ納税管理人ヲ定メ税務署ニ届出ヘシ

第二十八條　營業税法第三十三條ニ依リ收税官吏營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢査スルトキハ税務署ノ檢査章ヲ其ノ營業者ニ示スヘシ

附則

第二十九條　營業税法第二十一條第二項但書ニ該當スル營業者ハ同法第十三條ノ届書ニ要スル事項ヲ詳記シタル書類ヲ添ヘ明治三十年一月三十一日迄ニ地方長官ニ其開業年月日ヲ届出ヘシ

●營業税法ニ關スル業名、課税標準届樣式

（明治二十九年十二月十八日大藏省令第十八號）

明治二十九年法律第三十三號營業税法ニ關スル業名及課税標準届書ハ左ノ樣式

營業税法ニ關スル業名、課税標準届樣式

[illegible]ニ準シテ調製シ所轄稅務署ニ差出サシムル北海道公報第三十號明治三十年三月三十日第
マテハ所轄郡區役所ニ差出スヘシ

（大藏省令第十八號）

課稅標準中資本金額、建物賃貸價格及從業者ハ各其ノ計算ヲ明カニスル外ノ計
算ノ基ク處及營業稅法施行規則第二條但書ニ關スル諸第十六要件ヲ詳記シタル
明細書ヲ屆書ニ添附スヘシ但シ課稅標準額ヲ豫算スル場合ニ於テハ資土金、請
負金及報償金ト雖モ仍本項ニ準據スヘシ

第三十六號　明治何年營業名及課稅標準屆

營業場　北海道何府（縣）何郡（市）（區）何町（村）何番地商號

第一何々業（營業稅法第二十三條ニ該當スル者ニ限ル）

資土金額　何程
小賃何程
卸賃何程

一資本金額　何程

一請負金額　何程

一報償金額　何程

一建物賃貸價格　何程

一從業者　何人（內職工何人勞役者何人「職工勞役者ヲ課稅ノ要件トナスモノニ限ル」）

何年何月何日開業（營業稅法第十三條第一項但書ニ該當スル者ニ限ル）

右之通ニ候也

年月日

住所（會社ノ位置）

一營業者氏名印

北海道廳長官氏　名宛

（何々會社代表者氏名印）

名宛

稅務管理局長氏名

備考

一營業稅法第一條ノ營業種類及營業稅ヲ課セラルヘキ店舗其ノ他ノ營業場

營業稅法ニ關スル業名、課稅標準屆樣式

毎ニ各別紙ニ記載スヘシ但シ一稅務署所轄內（北海道ハ明治三十年三月三十一日マテハ郡區役所所轄內）ニ於テ數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ區分シテ業名及課稅ヲ同種ノ營業ヲ爲ス者ハ其ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設標準ヲ記載スルモ妨ケナシ

二　一稅務署所轄內（北海道ハ明治三十年三月三十一日マテハ郡區役所所轄內）ニ於テ數種ノ營業ヲ爲ス者ハ各屆書中營業名掲記ノ下ニ其兼業名ヲ記載スヘシ

三　同一ノ場所ニ於テ六箇月以內ニ前ノ營業者ト同一ノ營業ヲ開始シタル者ハ開業年月日ノ下ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

●酒造稅法（明治二十九年三月二十七日勅令第二十八號）

明治三十一年法律第二十三號三十三年法律第四十二號及三十四年法律第七號ヲ以テ改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル酒造稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

酒造稅法

第一條　此ノ稅法ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎ノ五種トス

第二條　酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受ク可シ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ム可シ

第三條　其ノ年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一酒造年度トス

第四條　其酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス

第一種　酒精分二十度以下ノ清酒、濁酒、白酒、味淋甘藷ヲ原料トシテ製造シタル燒酎ニシテ酒精分三十度以下ナルモノ　一石ニ付　金十五圓

第二種　酒精分四十五度以下ノ燒酎　一石ニ付　金十六圓

第三種　酒精分三十度ヲ超ユル清酒、濁酒、白酒、味淋及酒精分四十五度ヲ超ユル燒酎　一石ニ付　酒精分一度毎ニ金七十五錢

前項ニ於テ酒精分ト稱スル其ハ摂氏驗温器十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇・七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ノ容量トス

第五條　政府ハ酒造年度間清酒ハ百石濁酒ハ五十石燒酎ハ五石以上ヲ製造ス者ニ非サレハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘス但シ清酒又ハ濁酒制限石數以上ヲ製造スル者ニハ他ノ酒類ニ關スル制限ヲ適用セス

第酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者本條ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササルヿヲ誓キ第第災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ルヿヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル造石税ヲ課ス但シ其ノ製造セル酒類ノ石數ニ對シテハ其ノ年五月一日第三項九月三十日マテニ査定シタル石數ニ看做シ第四條第一項ノ税率ニ依リ其タ造石税ヲ徴收ス

第六條　造石税ノ納期ヲ分チ左ノ四期トス酒類ノ種類ニ依リ清酒濁酒燒酎ノ區別ニ從フヿ

第一期　翌年十月十六日ヨリ同三十一日限

第二期　前年十月二日ヨリ其ノ年四月三十日マテ査定石數ニ係ル税額四分ノ一

第三期　十月十六日ヨリ同三十一日限

第四期　翌年二月廿六日ヨリ同三十一日限

第十同上　其ノ酒類ノ製造ヲ廢止シタル日ヨリ其ノ日ヨリ三十日以内

第十同上及其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテ査定石數ニ係ル税額二分ノ一

第四期　翌年三月廿六日ヨリ同三十一日限

前納額ノ殘數

第七條　政府ハ酒類ヲ製造スル者脱税又ハ逋税ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ若ハ納税保證物ノ免除ヲ得タルヿヲ保證物ノ提供ヲ爲ササルトキハ前條ノ納期第二拘ラス造石税ノ全部又ハ一部ヲ徴收ス此場合ニ於テ既納税額ハ擔保物トシテ酒類ヲ差押フルコトヲ得

第八條　酒類ノ造石數ハ製成ノ時之ヲ査定スル其ノ容量ハ容器ノ容量ニ依ル但シ清酒ニ限リ命令ノ定ムル所酒類ノ造石數ヲ査定スルハ容器ノ容量ニ依リ清引減量ヲ控除スルヿトヲ得ル所ニ依リ査定石數百分五以内ヲ清引減量ヲ控除スルヿトヲ得ル所ニ依リ査定石數百分五以内ヲ清引減量ヲ控除スルヿトヲ得ル所ニ依リ査定石數百分五以内ヲ清引減量ヲ控

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前各項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒類又ハ證憑物件ニ就キ之ヲ査定ス

第九條　粕漉シタル酒類ハ粕漉ニ依リ増加シタル分ノミニ就キ其ノ造石數ヲ査定ス

第十條　酒類ヲ製造スル者ノ製造ニ係ル醪ハ左ノ場合ニ於テハ濁酒ヲ製成シタルモノトシテ其ノ造石數ヲ査定ス

一　他人ニ讓渡ストキ

二　公賣セラルルトキ

三　飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供スルトキ

第十一條　酒類ヲ製造スル者既ニ査定ヲ受ケタル酒類ノ造石數ニ對シテハ特ニ法律ヲ以テ定ムル場合ノ外其ノ造石稅ヲ免ルルコトヲ得ス

第十二條　左ノ酒類ハ其ノ造石稅ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　災害ニ罹リ酒類ハ廢棄ニ屬シタルモノ

二　腐敗シタル酒類ニシテ政府ノ承認ヲ得酒類トシテ飲用スヘカラサル處置ヲ施シタルモノ

三　腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ニシテ第二種ノ酒類ノ製造ニ供スルモノ

四　容器ノ損傷若ハ塞栓ノ自然ノ脫去ニ依リ酒類ノ亡失シタルモノ

第十三條　酒類ヲ製造スル者ハ納稅保證トシテ一酒造年度見込造石數一石ニ付金四圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ニ相當スル保證物ヲ豫メ提供スヘシ但シ政府ノ許可ヲ受ケ造石數査定ノ都度本條ノ割合ヲ以テ保證物ヲ提供スルコトヲ得

毎酒造年度ノ見込造石數又ハ査定石數前項ノ見込造石數ヨリ十石以上増加シタルトキハ其ノ石數ニ應シ前項ノ割合ニ依リ保證物ヲ増補スヘシ

毎酒造年度ノ見込造石數又ハ査定石數第一項ノ見込造石數ヨリ十石以上減少

シタルトキハ其造石數ニ應シ第一項ノ割合ニ依リ保證物ノ減少ヲ請求スル事ヲ得

酒類ヲ製造スル者此ノ法律ヲ犯シタル處罰セラレタル後三年間政府ハ造石税全額マテノ保證物提供ヲ滯納處分ヲ受ケタルトキハ爾後三年間政府ハ造石税ニ關シテ命スルコトヲ得

前三項ノ場合及保證物ノ價格ニ異動ヲ生シタル場合ヲ除クノ外保證物ヲ增減シ爲サス

保證物ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　左ノ場合ニ於テハ保證物ヲ免除ス

一　相當ノ納税保證人ヲ供シタルトキ

二　納税保證トシテ造石税額ニ相當スル酒類ヲ保存スルトキ

三　造石税ヲ前納シタルトキ

四　酒類ヲ製造スル者ノ屬スル酒造組合ニ於テ納税ヲ擔保シタルトキ

第十五條　酒類ヲ製造スル者造石税ヲ納メサルニ依リ滯納處分ヲ執行スルトキハ先ツ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シテ税金ヲ徴收スヘシ但シ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ價格徴收スヘキ税金額及滯納處分費ニ對シ不足アリト認ムルトキハ同時ニ他ノ財産ニ就キ滯納處分ノ執行ヲ爲スコトヲ妨ケス

第十六條　酒類ヲ製造スル者造石税ヲ完納スル能ハサルトキハ納税保證人又ハ納税ヲ擔保シタル酒造組合ノ各組合員ハ納税者トシテ其ノ義務ヲ負擔スル事ノトス

第十七條　酒類ヲ製造スル者納税保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ、賣入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十八條　酒類ヲ製造スル者ハ造石數査定前ニ於テ其ノ酒類ヲ他人ニ讓渡シ、賣入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十九條　收税官吏ハ酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル酒

類、其ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及酒類製造又ハ販賣上必要ナル建築物、材料、器械其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十條　酒類ヲ製造セサル者酒母又ハ醪ヲ製造セムトスルトキハ政府ノ免許ヲ受ケ酒類ヲ製造スル者ト等シク其ノ檢査監督ヲ受クヘシ

第二十一條　酒類ヲ製造セサル者ノ製造シタル醪ハ他人ニ讓渡シ、賣入シ、飲料トシテ消費シ又ハ政府ノ承認ヲ受ケスシテ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第二十二條　免許ヲ受ケスシテ酒母、醪又ハ酒類ヲ製造シタル者ハ五十圓以上五千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ直ニ造石稅ヲ賦課徵收スルコトヲ妨ケス

第二十三條　酒類ヲ製造セサル者第二十一條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條ノ二　免許ヲ受ケスシテ酒母、醪ヲ製造シタル者又ハ第二十一條ノ禁令ヲ犯シタル者ハ濁酒ヲ製造シタル者トシ其ノ製造ニ係ル酒母、醪ノ總石數ニ對シ造石稅ヲ課ス

前項ノ造石稅ハ第六條ノ納期ニ依ラス直ニ之ヲ納ムヘシ

第二十三條ノ三　削除

第二十四條　酒類ヲ製造スル者詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免カレ又ハ免カレムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅倍ニ五相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第二十五條　酒類ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第二十六條　納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ他人ニ讓渡シタル者滯納處分ヲ受クルモ仍ホ稅金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ其ノ不足造石稅ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第二十七條　酒類製造用ト否トヲ問ハス其ノ製造シタル酒母又ハ醪ノ檢査ヲ免カレ又ハ免カレムトシタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條　酒類ヲ製造スル者第十七條又ハ第十八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　酒類ヲ製造スルモノ又ハ之ヲ販賣スルモノ酒類ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若クハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　酒類ヲ製造スル者收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第三十一條　此ノ稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條　酒類ヲ製造スル者又ハ之レヲ販賣スル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ此ノ稅法ヲ犯シタルトキハ其製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第三十三條　第二十九條乃至第三十二條ハ酒類ヲ製造セサル者ニシテ酒母又ハ醪ヲ製造スル者ニモ適用ス

第三十四條　酒類ヲ製造シタル者ハ其ノ製造ヲ廢止スルモ造石稅完納前ニアリテハ總テ此ノ稅法ノ規程ニ從フモノトス

第三十五條　府縣及市町村ハ此ノ法律ニ依リ造石稅ヲ課スル酒類ニ對シ又ハ其ノ酒類ノ造石數若ハ造石稅ヲ標準トシテ府縣稅若ハ地方稅及市町村稅其ノ他如何ナル名義ヲ以テスルモ課稅スルコトヲ得ス

附　則

第三十六條　神社ニ於テ古例ニ依リ明治十三年以前ヨリ引續酒類ヲ製造スルトキハ一年ノ製造石數一石以下ノ場合ニ限リ總テ無稅トス

第三十七條　此ノ稅法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス但シ明治十三年布告酒造稅法

第四十號同年布告第四十一號同十六年布告第四十二號及同二十二年法律第二十四號ハ此ノ稅法施行ノ日ヨリ廢止ス

明治二十九年九月三十日前檢査濟石數ニ係ル造石稅ニ關シテハ仍ホ明治十三年布告第四十號ニ依ル

第三十八條　沖繩縣、東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此ノ稅法ヲ施行セス

第三十九條　沖繩縣ヲ除ク外此ノ法律ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル酒類ハ此ノ法律施行地ニ移出スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ酒類ノ石數ニ應シ第四條ノ稅率ニ從テ算出シタル稅額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ酒類ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

第四十條　酒類ヲ製造スル者ハ府縣郡市若ハ稅務署管內ヲ一區域トシテ酒造組合ヲ設クヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ數郡市若ハ數稅務署管內ヲ一區域ト爲スコトヲ得

組合ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則（三十四年法律第七號）

本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ同日前ニ於テ製成シタル酒類ニハ舊稅率ヲ適用ス

㊙酒造稅法施行規則（明治二十九年八月十七日勅令第二百八十七號）

朕酒造稅法施行規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

酒造稅法施行規則

第一條　酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ酒類ヲ定メ其住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造場ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ（三十四年勅令第百六十四號ヲ以テ改正）

第二條　酒類ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ム可

キモノヲ謂フ

第三條　酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所建物ノ詳細ナル圖面竝ニ酒造用容器、器具、器械ノ目錄ヲ調製シ事業著手前ニ稅務署長ニ提出スヘシ但シ酒類變更ノ場合ニ於テ製造場及容器、器具、器械ニ變更ナキトキハ此限ニ在ラス（三十四年勅令第百六十四號ヲ以テ但書追加三十五年勅令第二百五十三號ヲ以テ本令中稅務管理局長ヲ稅務署長ニ改ム）

前項ノ容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ酒類製造主ノ居所氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條　酒類製造主ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ稅務署長ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ其ノ檢定後ニアラサレハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條　酒類製造主ハ毎酒造年度ニ於テ製造スヘキ毎酒類ノ見込造石數、製造著手ノ時期、製造方法及其ノ仕込數ヲ記載シ其ノ酒造年度開始前ニ稅務署長ニ申告スヘシ但新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ本項ノ申告ヲ爲スヘシ（三十一年勅令第三百六十二號ヲ以テ但書追加）

前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其都度申告スヘシ但製造方法ノ變更ニ係ルモノハ承認ヲ受クヘシ

第六條　酒類製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

相續ノ場合ヲ除ク外酒類製造ノ事業ヲ引繼カムトスル者ハ總テ第一條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ受ク可シ此ノ場合ニ於テハ前製造主ハ酒造稅法第二條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第七條　酒類ノ造石稅ハ其ノ製造場所在ノ地方ニ於テ之ヲ徵收ス

第八條　酒類ノ造石數ハ容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ其ノ現在スル酒類ノ總量ニ就キ之ヲ査定スヘシ

第九條　酒造稅法第八條第二項但書ニ依リ滓引減量トシテ控除スルハ査定石數

ノ百分ノ二トス

犯則ニ係ル清酒ニ關シテハ滓引減量ヲ控除セス（三十四年勅令第百六十四號ヲ以テ改正）

第十條　酒類製造主自己ノ製造シタル酒類若ハ製造場外ヨリ移入シタル酒類又ハ醪、酒精、酒精含有飲料ヲ以テ酒類ヲ製造シタルトキハ其ノ製成酒類ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定ス可シ（同上ヲ以テ條中改正）

第十一條　酒造原料用ノ爲メ酒類ヲ製造スルトキハ其ノ成功ノ時之ヲ檢査スヘシ酒造用原料品トシテ酒類ヲ製造場内ニ移入シタルトキ亦同シ

收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第十二條　酒造用原料品トシタル酒類ヲ他人ニ讓渡シ、賣入シ、消費スルトキ若ハ公賣セラルルトキ又ハ製造場外ニ移出スルトキハ其ノ造石數ヲ査定スヘシ但シ他ヨリ讓受シタルモノニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　酒類製造主酒類ヲ粕漉セムトスルトキハ著手前ニ其ノ數量時期等ヲ稅務署長ニ申告スヘシ

第十四條　酒類製造主酒類ノ粕漉ヲ爲シタルトキ其ノ原酒類ノ石數ヲ確證スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

第十五條　酒滓、酒粕、蒸溜粕ヲ使用シテ製造スル酒類ハ割水其ノ他如何ナル名稱ヲ附スルモ總テ其ノ造石數ヲ査定スヘシ

第十六條　酒類製造主其ノ製造用ニ供スル醪ヲ他人ニ讓渡シ若ハ飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供セムトスルトキハ其ノ旨直ニ稅務署長ニ申告スヘシ

第十七條　酒母、醪又ハ原料用酒類ノ廢棄亡失若ハ腐敗シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ旨直ニ稅務署長ニ申告スヘシ

第十八條　酒造稅法第十二條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ稅務署長ニ申請ス可シ（三十一年勅令第三百六十二號ヲ以テ本條中改正）

第十九條　前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ稅務署長ハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ廢棄

若ハ亡失ヲ認ムルトキ又ハ酒類トシテ飲用スヘカラサル處置ヲ施シタリト認ムルトキハ稅金ノ免除處分ヲ爲スヘシ（三十一年勅令第三百六十二號ヲ以テ本條改正）

腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ヲ以テ燒酎ノ製造用ニ供セムトスル者ハ稅金ノ免除處分ヲ爲シ其ノ酒類ハ燒酎ノ原料品ノ取扱ヲ爲スヘシ（三十四年勅令第百六十四號ヲ以テ本項中改正）

第二十條　酒類製造主ハ酒類製造著手前ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ酒造稅法第十三條第一項但書ニ依リ造石數豈定ノ都度保證物ヲ提供セムトスル者ハ每酒造年度製造著手前ニ其ノ旨稅務署長ニ申請スヘシ（三十一年勅令第三百六十二號ヲ以テ改正）

保證物ヲ增補スヘキトキハ其ノ事由ノ生シタルトキ直ニ之ヲ提供スヘシ

酒類製造主保證物ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ酒造稅法第十四條ノ一方法又ハ敷方法ヲ選ミ之ヲ申請スヘシ

第二十一條　保證物ノ種類ハ左ニ揭クル者ニ限ル

一　金錢

二　利付國債證券地方債證券

三　政府ノ保護又ハ監視ヲ受クル株式會社ノ株券又ハ債券

四　土地

五　酒類製造場內ノ建物但シ火災保險ニ付シタルモノニ限ル

第二十二條　保證物ノ保證價格ヲ定ムルハ有價證券ハ市場ニ於ケル前月ノ平均價格土地建物ハ稅務署長ノ認メタル時價ヨリ十分ノ二ヲ控除シタルモノニ依ル但シ建物ニ付テハ時價ヨリ其ノ十分ノ二ヲ控除シタルモノ被保險額ヨリ多キトキハ被保險額ニ依ル（三十一年勅令第三百六十二號ヲ以テ改正）

第二十三條　保證物中金錢、有價證券ハ提供者之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出シ土地、建物ニ關シテハ稅務署ニ於テ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託ス（三十四年勅令第百六十四號ヲ以テ改正）

第二十四條　保證物トシテ提供シタル證券債券ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキ若ハ建物ノ壞倒亡失シタルトキ又ハ保險契約ノ消滅シタルトキハ酒類製造主ハ稅務署長ノ指定期限內ニ更ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ建物ニ對スル保險金ヲ受領シタルトキハ其ノ保險金ヲ保證物トシテ供託スヘシ

第二十五條　酒造稅法第十三條ノ保證物ヲ提供セサルトキハ收稅官吏ハ製造酒類ニ封緘ヲ附シ之ヲ讓渡シ、賣入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルヲ停止スルコトヲ得

第二十六條　納稅保證人ハ稅務署長ニ於テ納稅保證ニ堪フル資力アリト認ムル者ニ限ル

第二十七條　稅務署長ハ納稅保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘサルニ至リタリト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得

第二十八條　收稅官吏ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第二十九條　稅務署長ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類納稅保證ニ適セサルニ至リタリト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得

第三十條　酒類製造主ハ稅務署長ニ申出保證物、納稅保證人又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ變換ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條　酒類製造主稅金ヲ納メサルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ニ通知シ其ノ稅金ヲ納メシムヘシ（三十一年勅令第三百六十二號ヲ以テ本條改正）

納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ニ於テ稅金ヲ完納セサルトキハ酒類製造主ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

前項滯納處分ノ後仍稅金ニ不足アルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ノ各組合員ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

第三十二條　同一製造場內ニ於テ清酒並ニ濁酒ヲ製造セムトスル者ハ其ノ釀造藏置ニ供スル場所ヲ酒類別ニ特定シ稅務署長ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條　稅務署長容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲シタルトキハ之ニ其ノ番號容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

第三十四條　收稅官吏ハ隨時酒類製造場又ハ酒類販賣場ニ就キ酒類、酒造用原料品、器具、器械、容器、帳簿又ハ書類ヲ檢査スヘシ（三十四年勅令第百六十四號ヲ以テ本條中改正）

第三十五條　收稅官吏ハ搾器械、蒸溜器械ノ使用停止中之ニ封緘ヲ附スヘシ但シ修理其ノ他必要ノ事故アルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得

收稅官吏ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ原料用酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第三十六條　自己ノ所有ト否トヲ問ハス容器、器具、器械及酒造用原料品ハ收稅官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ酒類製造中ハ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第三十七條　酒造用原料品中酒母又ハ醪ノ檢査ハ熟成ノ時ニ於テ之ヲ行フ但シ其ノ熟成シタル酒母又ハ醪ヲ製造場內ニ移入シタルトキハ其ノ移入ノ時ニ於テスヘシ

酒母、醪以外ノ原料品ハ其ノ使用前便宜之ヲ檢査スヘシ其ノ檢査後ニアラサレハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第三十八條　酒類製造主ハ製造方法ノ異ナル每ニ並ニ一仕込每ニ酒母及醪ニ記號ヲ附シテ之ヲ區分シ收稅官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ彼此混淆スルコトヲ得ス

第三十九條　酒類製造主左ニ揭クル事項ヲ行ハムトスルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

一　熟成シタル酒母ヲ醪ニ仕込ムコト

二　熟成シタル醪ヲ酒母ニ代用シ添掛ヲ爲スコト

三　酒母、醪又ハ原料用酒類ノ容器ヲ變換スルコト

四　仕込濟ノ醪ニ水ヲ混和スルコト

五　原料用酒類ノ用途ヲ變更スルコト

六　藏出前ニ於ケル自己製造ノ酒類ニ買入酒類ヲ混和シ又ハ割水ヲ爲スコト

第四十條　酒類製造場外ヨリ酒類製造場内ニ酒母、醪又ハ酒類ヲ移入シタルトキハ其ノ旨直ニ稅務署長ニ申告スヘシ

第四十一條　二仕込以上ノ醪ヲ合併シテ清酒ヲ搾揚ケムトスルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ但シ七仕込以上ノ醪ハ之ヲ合併スルコトヲ得ス

第四十二條　酒粕ハ其ノ搾揚ケタル酒類ノ造石數査定ノ時之ヲ檢査スヘシ酒類製造主ハ前項檢査後ニアラサレハ酒粕ヲ製造場外ニ移出シ又ハ使用シ若ハ他ノ酒粕ト混合スルコトヲ得ス

第四十三條　酒類製造主ハ酒造用原料品及酒粕ノ受拂、酒母及醪ノ仕込、燒酎又ハ酒精ノ造リ込、酒類ノ藏出、受拂、增減ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ但シ他ノ法律命令又ハ商業上ノ慣例ニ依リ設備スル帳簿ニシテ本文ノ事項ヲ明ニスルモノアルトキハ此ノ限ニ在ラス

附則

第四十四條　酒造稅法施行前ニ於テ明治十三年布告第四十號ニ依リ酒造營業ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ尙ホ引續キ酒造稅法第三條ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ明治二十九年九月三十日迄ニ第三條ノ圖面、目錄ヲ添ヘ其ノ旨稅務署長ニ申請スヘシ

第四十五條　酒造稅法第三十六條ニ該當スル者ハ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルコトノ事實ヲ具シ稅務署長ニ免許ヲ申請スヘシ

●麥酒稅法（明治三十四年三月三十日法律第十二號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル麥酒稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

麥酒稅法

第一條　麥酒（ビール）ニハ本法ニ依リ麥酒稅ヲ課ス

第二條　麥酒ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第三條　麥酒稅ハ麥酒一石ニ付金七圓ノ割合ヲ以テ其ノ製造石數ニ應シ麥酒ヲ製造スル者ヨリ之ヲ徵收ス

第四條　麥酒稅ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ製造ヲ廢止シタルトキハ即納トス

第五條　麥酒ヲ製造スル者麥酒稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫セムトスルノ所爲アリト認ルトキハ政府ハ直ニ麥酒稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收ス此ノ場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ麥酒ヲ差押スルコトヲ得

第六條　麥酒ノ製造石數ハ製成ノ時容器ノ容量ニ依リ之ヲ査定ス

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ麥酒又ハ雜澱物件ニ就キ其ノ製造石數ヲ査定シ麥酒稅ヲ課ス

第七條　災害ニ罹リ亡失シタル麥酒ニ關シテハ其ノ麥酒稅ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八條　麥酒ヲ製造スル者ハ製造石數査定前ニ於テ其ノ麥酒ヲ他人ニ讓渡シ、賣入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第九條　麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ麥酒ノ製造、出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十條　收稅官吏ハ命令ノ規定ニ依リ麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル麥酒、其ノ製造、出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及麥酒製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條　免許ヲ受ケスシテ麥酒ヲ製造シタル者ハ其ノ麥酒稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十二條　麥酒ヲ製造スル者詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ其ノ製造石數ノ査定ヲ免カレ又ハ免カレムトシタルトキハ其ノ麥酒稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十三條　麥酒ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ麥酒稅ノ免除

ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ申請ニ係ル總石數ノ麥酒稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十四條　麥酒ヲ製造スル者第八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ原料又ハ帳簿書類ヲ隱蔽シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者麥酒ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十八條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ麥酒製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第二十條　麥酒製造ヲ廢止シタル者及其ノ相續人ハ麥酒稅完納前ニ在リテハ總テ本法ノ規定ニ從フ

附則

第二十一條　本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條　本法施行前ヨリ麥酒ノ製造ヲ爲ス者本法施行後十日以內ニ於テ製造場一箇所毎ニ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

●麥酒稅法施行規則

（明治三十四年八月二十三日勅令第百六十八號）

麥酒稅法施行規則

改麥酒稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

麥酒稅法施行規則

第一條　麥酒ヲ製造セムトスル者ハ製造場ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造場ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第二條　麥酒ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條　麥酒製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所、建物ノ詳細ナル圖面、製造用容器、器具、器械ノ目錄及麥酒製造方法書ヲ調製シ事業著手前所轄稅務署ニ提出スヘシ

前項ノ圖面及目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造方法ヲ變更シ又ハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條　麥酒製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ稅務署ハ之ニ番號、容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

前項檢定後ニ非サレハ製造者ハ麥酒製造用容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第五條　麥酒製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ休止後製造ニ著手セムトスルトキ又ハ其ノ申告シタル事項ヲ變更スルトキ亦同シ

第六條　麥酒製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

麥酒製造業ヲ讓渡サムトスルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘ

第七條　麥酒製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第八條　製造石數査定ハ濾過シタル時ニ於テス

第九條　麥酒釀造中醱酵液廢棄、亡失其ノ他醱酵液ニ異狀アリタルトキハ製造者ハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條　麥酒稅法第七條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ亡夫ノ事實アリタルトキ直ニ其ノ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十一條　麥酒製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先

二　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三　製造シタル麥酒ノ數量及其ノ製成ノ日

四　他ニ引渡シタル麥酒ノ數量、價額、引渡ノ日及引渡先

小賣ノ場合ニ以テハ前項第四號引渡先ノ記載ヲ要セス

第十二條　麥酒販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　引取リタル麥酒ノ數量、價額、引取ノ日及引取先

二　販賣シタル麥酒ノ數量、價額、販賣ノ日及賣渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第十三條　收稅官吏ハ隨時麥酒製造場又ハ販賣場ニ就キ麥酒、其ノ原料品、容器、器具、器械又ハ帳簿書類ヲ檢査スヘシ

第十四條　收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ製造用容器、器具、器械ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十五條　麥酒製造者ハ左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

一　麥芽汁ヲ醱酵桶ニ入レムトスルトキ

二　醱酵液ヲ他ノ容器ニ移替ヘムトスルトキ

三　麥酒ノ濾過ヲ爲サムトスルトキ

四　麥酒ノ殘滓等ヲ用ヰ更ニ麥酒ヲ製造セムトスルトキ

五　麥酒ノ殘滓ヲ製造場外ニ移出シ又ハ他ノ殘滓ト混合セムトスルトキ

六　自己ノ所有ト否トヲ問ハス製造用容器、器具、器械ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ

七　製造場外ヨリ製造場内ニ麥酒ヲ移入セムトスルトキ

第十六條　麥酒製造者製造場所在地ニ現住セサルトキハ麥酒稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十七條　收稅官吏ハ麥酒製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附　則

第十八條　本令第四條第二項ハ本令施行ノ際ニ限リ麥酒稅法第二十二條ニ依リ麥酒ノ製造ヲ申告シタル者ニ之ヲ適用セス

●醬油稅則（明治二十一年六月十六日勅令第四十七號）

醬油稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

醬油稅則

第一條　醬油（溜ヲ併稱ス）ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受ク可シ其製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ム可シ（三十二年法律第二十五號ヲ以テ改正）

自家用料ノミノ醬油ヲ製造スル者ニシテ一家一箇年ノ諸味仕込高又ハ溜製成高一石以下ニ止マルモノハ前項ノ免許ヲ受クルヲ要セス但左ニ記載スル者ハ此限ニ在ラス

一　醬油請賣人

二　料理店、飲食店、旅人宿營業者

三　前二號ノ者ト同居スル者

醬油稅則

第二條　醤油製造人ハ左ノ造石税ヲ納ムヘシ但自家用料ノミノ醤油ヲ製造スルモノハ半額トス(同上)

造石税　醤油ハ諸味一石ニ付　金二圓
溜ハ製成一石ニ付　金二圓

第三條　第一條第二項ニ該當スル者ハ前條ノ造石税ヲ課セス(同上)

第四條　造石税ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其際之ヲ納ムヘシ(同上)

第一期　七月三十一日限
二月一日ヨリ四月三十日マテ査定石數ニ係ル税額
第二期　十二月三十日限
五月一日ヨリ八月三十一日マテ査定石數ニ係ル税額
第三期　翌年三月三十一日限
九月一日ヨリ十二月三十一日マテ査定石數ニ係ル税額

第五條　醤油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日以内ニ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受クヘシ

造石數査定濟ノ醤油ト査定未濟ノ醤油トヲ混和シタルトキハ其總石數ニ就キ更ニ査定ヲ受クヘシ

第六條　醤油製造人廢業ノ際査定未濟ノ醤油ヲ所持スルトキハ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受ケ其造石税ヲ納ムヘシ但其醤油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ限リ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ其賣受讓受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石税ヲ納ムルコトヲ得

製造場二箇所以上ニ於テ醤油製造ヲ爲ス者其一箇所以上ヲ廢シ査定未濟ノ醤油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

第七條　醤油ヲ原料トシテ醤油ヲ製造スルトキハ原料醤油ニハ造石税ヲ課セス(同上)

第八條　醤油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醤油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ貸渡

スコトヲ得ス

第九條　醤油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已ムヲ得サル事故ニ因リ管廳ニ届出タル後ニ非サレハ造石數査定未濟ノ醤油ヲ其製造場外ニ移スコトヲ得ス

第十條　醤油製造人ハ造石數査定未濟ノ醤油ヲ賣渡貸渡讓渡又ハ自用スルコトヲ得ス但第六條但書ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條　造石税ノ査定ヲ經タル醤油其造石税納期内ニ天災又ハ避ヘカラサル事故ニ因リ廢棄ニ屬シタルトキハ直チニ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造石税ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條　醤油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十三條　外國ニ輸出スル醤油ハ輸出ノ節税關ノ檢査ヲ受置キ輸入港税關ノ陸揚免狀若クハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ税關ニ差出シ造石税ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得其下戻ノ歩合ハ大藏大臣定ムル所ニ依ルヘシ但造石税ノ下戻ヲ受ケタル醤油ヲ本邦ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港税關ニ還納スヘシ

第十四條　醤油製造人ノ製造スル醤油ハ他ノ依託ヲ受ケ又ハ自家用料ニ供スルモノト雖モ總テ此税則ニ從フヘシ

醤油製造人ハ製造場外ニ於テ自家用料ノ醤油ヲ製造スルコトヲ得ス

第十五條　第一條第二項ニ該當スル者ハ政府ニ申告スヘシ（同上）

第十六條　自家用料ノ爲メ製造シタル醤油ハ之ヲ賣渡スコトヲ得ス

第十七條　醤油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醤油仕込高並仕込ニ屬スル原品及營業ニ關スル帳簿ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十八條　當該官吏ニ於テ此税則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入リ證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十九條　第一條第二項ニ該當セサル者ニシテ免許ヲ受ケス醤油ヲ製造シタル

者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其造石數ニ照シ第二條ノ造石稅ヲ課ス(同上)

前項ノ造石稅ハ其際直ニ之ヲ納ムヘシ

第二十條　醬油製造人ニシテ醬油ヲ隱匿シタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス(同上)

第十條第十四條第二項ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十一條　第五條第六條ノ査定ヲ受ケサル者第八條第九條第十六條ヲ犯シタル者第十五條ノ申告ヲ爲ササル者及逋稅ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第十六條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其總石數ニ第二條ノ造石稅ヲ課ス(同上)

前項ノ造石稅ハ其際直ニ之ヲ納ムヘシ

第二十二條　第六條ノ檢査ヲ受ケサル者及帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(同上)

第二十三條　第一條第二項ニ該當スル者一石ヲ超エテ諸味ヲ仕込ミ又ハ醬ヲ製成シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ其總石數ニ第二條ノ造石稅ヲ課ス(同上)

前項ノ造石稅ハ其際直ニ之ヲ納ムヘシ

第二十四條　此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒ[illegible]

第二十五條　醬油製造人ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其製造人ヲ處罰ス[illegible]

醬油製造人十六才未滿ノ幼年者及瘋顛白痴又ハ癈疾ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス[illegible]

第二十六條　此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十七條　此稅則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス[illegible]

第二十八條　[illegible]

第二十八條　沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス

但此稅則施行ノ地ニ輸送スル醬油ヲ製造スル者ハ此稅則ニ從フヘシ（三十二年法律第二十五號ヲ以テ條中改正）

第二十九條　此稅則施行以前ニ免許ヲ受ケタル醬油製造人ニシテ第一條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以內ニ管廳ニ屆出ヘシ

附　則（三十二年法律第二十五號）

此法律ハ明治三十二年三月一日ヨリ施行シ同日以後ノ査定ニ係ル醬油ニハ其製造著手ノ時期ニ拘ラス此法律ヲ適用ス

此法律施行ノ際醬油製造營業ノ免許鑑札ヲ受ケタル者ハ此法律ニ依テ製造ヲ免許シタルモノト看做ス

此法律施行ノ際自家用料ノ醬油ヲ製造スル者ハ明治三十二年三月二十日マテニ其現在諸味石高ヲ記載シ政府ニ申告スヘシ但明治三十二年ニ限リ第一條第三項ノ制限石數ハ此法律施行後ニ於テ仕込ムモノノミヲ計算ス

醬油稅則施行規則

（明治三十二年三月六日勅令第四十六號）

除醬油稅則施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

醬油稅則施行規則

第一條　醬油稅則第一條第二項ニ該當スル者ヲ除ク外醬油ヲ製造セムトスル者若ハ其ノ製造場及居所、氏名ヲ記シ稅務署長ニ申請シ其ノ免許ヲ受クヘシ但シ自家用ノミノ醬油ヲ製造セムトスル者ハ其ノ旨ヲ附記スヘシ（三十五年勅令第二百五十三號ヲ以テ本令中稅務管理局長ヲ稅務署長ニ改ム）

醬油製造場ヲ移轉セムトスルトキハ稅務署長ニ申請シテ其ノ免許ヲ受クヘシ

第二條　醬油稅則第一條第二項ニ該當スル者ハ其ノ居所、氏名ヲ記シ稅務署長ニ申告スヘシ其ノ醬油製造ヲ廢止シ又ハ居所、氏名ヲ變更シタルトキハ直ニ之ヲ申告スヘシ

第三條　醬油製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第四條　醬油製造人其ノ製造場毎ニ地所、建物ノ詳細ナル圖面竝醬油製造用容器ノ目錄ヲ調製シ事業著手前ニ稅務署長ニ提出スヘシ

前項ノ容器ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ之ヲ申告スヘシ醬油製造人ノ居所ト氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第五條　醬油製造人ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ容器ニ關シ同條第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ稅務署長ハ其ノ容器ノ檢定ヲ爲スヘシ其ノ檢定後ニ非サレハ醬油製造人ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

稅務署長容器ノ檢定ヲ爲シタルトキハ之ニ番號其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スヘシ

第六條　醬油製造人ハ毎年見込仕込石數、見込査定石數及製造方法ヲ記シ前年十二月中ニ稅務署長ニ申告スヘシ但シ前年ノ製造方法ニ依ルモノハ其ノ旨ヲ申告シ別ニ製造方法ヲ記載スルコトヲ要セス

新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ前項ノ申告ヲ爲スヘシ

前二項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ之ヲ申告スヘシ

第七條　醬油製造人ノ相續人其ノ製造ヲ繼續セムトスルトキハ稅務署長ニ申出テ繼續ノ免許ヲ受クヘシ

相續ノ場合ヲ除ク外醬油製造ヲ引繼カムトスル者ハ總テ第一條ニ依リ醬油製造ノ免許ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造人ハ醬油稅則第二條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第八條　醬油ノ造石稅ハ其ノ製造場所在ノ地方ニ於テ之ヲ徵收ス

第九條　醬油ノ造石數ハ容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ其ノ現在スル醬油ノ總量ニ就キ之ヲ査定スヘシ

前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ醬油又ハ醬濃物件ニ就キ之ヲ査定スヘ

シ

第十條　醬油ヲ醬油製造ノ原料ニ供セムトスルトキハ醬油ハ製成前溜ハ製成ノ際其ノ石數ノ檢定ヲ受クヘシ

前項ニ依リ檢定ヲ受ケタル醬油ヲ製造場外ニ移サムトスルトキハ稅務署長ニ申告スヘシ

第十一條　前條第一項ニ依リ檢定ヲ受ケタル醬油ヲ竈渡ハ貸渡ハ讓渡又ハ自用シ若ハ前條第二項ノ申告ヲ爲サスシテ其ノ製造場外ニ移シタルトキハ檢定石數ニ依リ其ノ造石數ヲ査定スヘシ

第十二條　醬油製造人ハ左ノ場合ニ於テ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

一　自己ノ所有ト否トヲ問ハス容器ヲ製造場外ニ移サムトスルトキ

二　原料用醬油ヲ使用セムトスルトキ

三　諸味又ハ原料用醬油ノ容器ヲ變換セムトスルトキ

第十三條　造石數査定未濟ノ醬油漏溢其ノ他ノ事故ニ依リ減量又ハ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ稅務署長ニ申告スヘシ

第十四條　醬油稅則第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第十五條　前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ稅務署長ハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ廢棄ヲ認ムルトキハ稅金ノ免除處分ヲ爲スヘシ

第十六條　外國ニ輸出シタル醬油ノ造石稅下戻ヲ請求セムトスル者ハ輸出港稅關ノ檢査濟證明書竝輸入港稅關ノ陸揚免狀若ハ其ノ他ノ證憑書類ヲ當初ノ輸出港稅關ニ提出スヘシ

第十七條　醬油ヲ製成シタル後其ノ諸味造石數ノ算出ヲ要スルトキハ所轄稅務署管内ニ於ケル前年中ノ製成醬油一石ニ對スル諸味石數ノ平均步合ニ依ル但シ輸出醬油ノ造石稅下戻ノ場合ニ於テハ全國ニ於ケル前年中ノ製成醬油一石ニ對スル諸味石數ノ平均步合ニ依ル

第十八條　溜粕ハ其ノ製成シタル溜ノ造石數査定ノ時之ヲ檢査スヘシ

第十九條　醬油製造人ハ毎年一月三十一日限リ前年中ニ製成シタル醬油石數及其ノ諸味石數ヲ稅務署長ニ申告スヘシ

醬油製造ヲ廢止シタルトキハ其ノ年一月一日ヨリ廢止ノ日ニ至ルマテニ製成シタル醬油石數及其ノ諸味石數ヲ其ノ際申告スヘシ

第二十條　醬油製造人ハ醬油製造用原料品ノ受拂、醬油ノ仕込、製成、出入、消費ニ關シ詳細ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第二十一條　本令ニ於テ醬油製造ノ免許ヲ受ケタル者ヲ稱スルハ醬油製造ノ免許ヲ受ケタル者ヲ謂フ

砂糖消費稅法（明治三十四年三月三十日法律第十三號）

陛帝國議會ノ協贊ヲ經タル砂糖消費稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　內地消費ノ目的ヲ以テ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜及糖水ニハ本法ニ依リ消費稅ヲ課ス

第二條　製品ノ原料トシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ使用スルハ其ノ消費ト看做ス

第三條　消費稅ノ割合左ノ如シ

第一種　砂糖色相和闌標本第八號未滿ノ砂糖及糖蜜百斤ニ付金一圓

第二種　砂糖色相和闌標本第八號以上第十五號未滿ノ砂糖　百斤ニ付金一圓六十錢

第三種　砂糖色相和闌標本第十五號以上第二十號以下ノ砂糖及糖水　百斤ニ付金二圓二十錢

第四種　砂糖色相和闌標本第二十號ヲ超ユル砂糖及氷砂糖　百斤ニ付金二圓八十錢

第四條　前條ノ消費稅ハ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトキ之ヲ徵收ス但シ政府ニ於テ相當ト認ムル擔保ヲ提供スルトキハ六箇月以內消費稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ其ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ見本ヲ採取スルコトヲ得

前項ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限内ニ税金ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消費税及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付ス

擔保物ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　内地消費ノ目的ニ非スシテ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付テハ消費税ニ相當スル擔保ヲ提供スルコトヲ要ス擔保物ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ニ依リ擔保ヲ供シタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ引取後六箇月内ニ外國ニ輸出セラレタルノ證明ナキモノハ内地消費ニ供セラレタルモノト看做シ擔保ヲ以テ消費税ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消費税及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付ス

第六條　消費税納付前又ハ擔保提供前ニ於テハ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルコトヲ得ス

第七條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ消費税納付前又ハ擔保提供前ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ他ニ引渡シ又ハ政府ノ承認ヲ得スシテ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第八條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第九條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ帳簿ヲ備ヘ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第十條　收税官吏ハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水、其ノ製造、出入ニ關スル帳簿書類及其ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條ノ一　政府ノ承認ヲ受ケ砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ引取ラルル砂糖及糖蜜ニハ消費税ヲ課セス

前項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ルトキハ其ノ税金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第二項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取リタル後六箇月以内ニ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造セサルトキハ消費税ヲ徴收ス

第四條第三項及第三項ノ規定ハ本條ノ場合ニ之ヲ適用ス（三十五年法律第二十二號ヲ以テ本條改正）

第十一條ノ二　第六條及第七條ノ規定ハ前條ノ砂糖又ハ糖蜜ノ引取及引渡ニ之ヲ適用セス（同上）

第十二條　第六條又ハ第七條ノ禁令ヲ犯シタル者ハ消費税五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十三條　政府ニ申告セスシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造シタル者ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者、砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　收税官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十六條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

附　則

第十八條　本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條　本法施行前ヨリ引續キ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ本法施行

後二箇月以内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スヘシ

前項ニ違反シタル者ニハ第十三條ヲ適用ス

附　則（明治三十五年法律第二十一號）

本法施行前ニ於テ消費税ヲ課セラレタル砂糖及糖蜜ヲ本法施行後ニ於テ砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ使用スルトキハ仍從前ノ規定ニ依ル

砂糖消費税法施行規則（明治三十四年八月二十三日勅令第百六十九號）

朕砂糖消費税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砂糖消費税法施行規則

第一條　砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其住所、氏名又ハ名稱ヲ記シ所轄税務署ニ申告スヘシ

第二條　製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條　所轄税務署ニ於テ必要ト認メ砂糖製造場ノ圖面又ハ製造用器具器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトキハ砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者ハ之ヲ提出スルコトヲ要ス

第四條　砂糖、糖蜜、糖水製造者ハ製造着手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄税務署ニ申告スヘシ製造休止後更ニ着手セムトスルトキ亦同シ

第五條　第一條及第四條ニ依リ申告シタル事項又ハ第三條ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄税務署ニ申告スヘシ

第六條　砂糖、糖蜜、糖水製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄税務署ニ申告スヘシ

第七條　收税官吏ハ隨時砂糖、糖蜜、糖水ノ製造場ニ就キ砂糖、糖蜜、糖水、其ノ原料品、製造用器具、器械又ハ帳簿、書類ヲ檢査スヘシ

第八條　收税官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ砂糖、糖蜜、糖水製造者ノ貯藏

[illegible]ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水、其ノ貯藏場又ハ其ノ製造用器具、器械ニ封印ヲ施スコトヲ得

第九條　砂糖、糖蜜、糖水製造者砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場外ニ移出セントスルトキハ其ノ種類、量目及移出先ニ付收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ其ノ砂糖、糖蜜、糖水ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ

第十條　製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ砂糖、糖蜜、糖水ヲ引取ラントスル者ハ內地消費ノ目的ヲ以テスルモノト否トヲ區別シ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十一條　砂糖消費稅法第四條第一項但書及同法第十一條又ハ第一項ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ前條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ（三十五年勅令第五十一號ヲ以テ本條改正）

砂糖消費稅法第十一條ノ一第一項ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ前項申請ノ際砂糖又ハ糖蜜ノ種類、量目、引取ノ場所及時期、製造スヘキモノノ種類、製造ノ場所及時期ヲ申出ツルコトヲ要ス

砂糖消費稅法第十一條ノ一第一項ニ依リ收稅官吏ノ承認シタル砂糖又ハ糖蜜ニ付テハ第九條第三項ヲ準用ス

第十二條　第十條ノ申告アリタルトキハ所轄稅務署ハ砂糖消費稅法第三條ノ種別及斤數ヲ査定シ其ノ直ニ消費稅ヲ徵收スヘキモノハ其ノ徵收ノ手續ヲ爲シ其ノ擔保ノ提供ヲ要スルモノハ提供スヘキ擔保額ヲ指定スヘシ（同上ヲ以テ本條中改正）

第十三條　收稅官吏ハ金庫所在地外ニ限リ自ラ消費稅金ノ領收ヲ取扱フコトヲ得

納稅義務者ハ金庫所在地外ニ限リ收入印紙ヲ以テ砂糖消費稅ヲ納ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ砂糖消費稅査定書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ニ消印スヘシ

第十四條　收稅官吏ハ日頭ヲ以テ納稅告知ヲ爲スコトヲ得

第十五條　砂糖消費稅法第四條、第五條及第十一條ノ一ニ依リ提供スヘキ擔保物ノ種類ハ金錢及有價證券ニ限ル（三十五年勅令第五十一號ヲ以テ本項中改正）

擔保ヲ提供セムトスル者ハ前項ノ擔保物ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十六條　有價證券ノ價格減少シタルトキハ所轄稅務署ハ增擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第十七條　砂糖、糖蜜、糖水製造者、稅關又ハ保稅倉庫砂糖、糖蜜、糖水ノ引渡ヲ爲ストキハ引取者ヲシテ消費稅納付濟、擔保提供濟又ハ無擔保引取承認濟ナルコトヲ證明セシムルコトヲ要ス（三十五年勅令第五十一號ヲ以テ本條中改正）

第十八條ノ一　砂糖消費稅法第五條ニ依リ提供シタル擔保ノ解除ヲ請求スル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第一　輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類

二　外國輸入港稅關ノ輸入免狀又ハ其ノ他外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類

第十八條ノ二　砂糖消費稅法第十一條ノ一ニ依リ提供シタル擔保ノ解除ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ擔保提供濟ナルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附シ擔保ヲ提供シタル稅務署ニ申請スヘシ（三十五年勅令第五十一號ヲ以テ本條追加）

前項ノ場合ニ於テ其ノ申請スヘキ稅務署カ製造場所轄稅務署ト異ルトキハ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造シタルコトヲ證スヘキ書類ヲモ添附スルコトヲ要ス

第十九條　砂糖消費稅法第四條第二項、第五條第二項及第十一條ノ一第四項ニ依リ擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ公賣スヘシ（同上ヲ以テ本條中改正）

第二十條　前項ノ公告ニハ擔保提供者ノ住所、氏名又ハ名稱、證券ノ種類、金額、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第二十一條　公賣決行前ニ消費稅及費用ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ中止スヘシ

第二十二條　砂糖消費稅法第四條第二項但書、第五條第二項但書及第十一條ノ第四項ニ依リ擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得(三十五年勅令第五十一號ヲ以テ本條中改正)

第二十三條　砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ引取リタル砂糖、糖蜜ハ他ノ砂糖又ハ糖蜜ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ(同上ヲ以テ改正)

第二十四條　砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ引取リタル砂糖又ハ糖蜜ヲ使用セムトスルトキハ豫メ收稅官吏ニ申告シテ其ノ檢査ヲ受クヘシ(同上)

第二十五條　前條砂糖、糖水又ハ酒精ノ製造ヲ終リタルトキハ相當期間內ニ其ノ使用シタル原料ノ種類、量目及製造シタルモノノ種類、量目ヲ收稅官吏ニ申告スヘシ(同上)

第二十六條　砂糖、糖蜜、糖水製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、量目、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二　使用シタル原料ノ種類、量目及其ノ製造ノ日

三　製造シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目及其ノ製造ノ日

四　他ニ引渡シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第二十七條　砂糖、糖蜜、糖水ヲ販賣スル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　引取リタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價額、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二　販賣シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價額、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セス

第二十八條　收稅官吏ハ砂糖、糖蜜、糖水製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十九條　本令中稅務署ニ屬スル事務ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル砂糖ニ關シテハ稅關之ヲ行フ（三十五年勅令第二百五十二號ヲ以テ改正）

附則

第三十條　砂糖消費稅法第十九條ニ依リ政府ニ申告スヘキ場合ニ於テハ第一條ニ準シテ所轄稅務署ニ申告スヘシ

附則（三十五年勅令第五十一號）

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年法律第二十一號附則ノ規定ニ依ル

●賣藥印紙稅規則（明治十五年十月二十七日第五十二號布告）

賣藥印紙稅規則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

賣藥印紙稅規則

第一條　賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

印紙稅ノ割合

一　定價壹錢迄　印稅壹厘
一　同　貳錢迄　同　貳厘
一　同　參錢迄　同　參厘
一　同　五錢迄　同　五厘
一　同　拾錢迄　同　壹錢

以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス

賣藥印紙稅規則

第二條　印紙種目ハ左ノ如シ

壹厘	淡黑色
貳厘	青色
參厘	黃色
五厘	茶褐色
壹錢	赭色
貳錢	綠色
參錢	濃青色
四錢	橙黃色
五錢	紫色
拾錢	深紅色

第三條　印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ但紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ

第四條　賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限リ賣捌クモノトス

第五條　營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條　請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其ノ品沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

（印紙貼用雛形略ス）

骨牌稅法

（明治三十五年四月四日法律第四十四號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル骨牌稅法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

骨牌稅法

第一條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲サムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ免許ハ骨牌ノ製造ヲ爲サムトスル者ニ在リテハ製造所一箇所毎ニ骨牌ノ販賣ヲ爲サムトスル者ニシテ販賣所ヲ有スル者ニ在リテハ販賣所一箇所毎ニ之ヲ受クヘシ

骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第二條　收稅官廳所在地外ニ於テハ政府ハ骨牌製造ノ免許ヲ與ヘス

第三條　骨牌製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ毎年製造所一箇所毎ニ免許料六十圓ヲ納ムヘシ

免許料納付ノ期限及方法ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第四條　骨牌ニハ一組毎ニ二十錢ノ稅ヲ課ス

第五條　骨牌稅ハ骨牌ノ包裝ニ印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

第六條　骨牌ヲ製造シ又ハ輸入シタルトキハ製造後二十四時間內又ハ稅關若ハ保稅倉庫ヨリ引取前ニ於テ一組毎ニ包裝ヲ施シ貼用印紙ヲ破毀スルニ非サレハ骨牌ヲ取出スコトヲ得サル樣裝置ヲ爲スヘシ

第七條　貼用印紙ニハ印紙面ヨリ他所ニカケ消印ヲ爲スヘシ

第八條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ骨牌ノ出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第九條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ相當印紙ノ貼用ナキ骨牌、第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ヲ所持スルコトヲ得ス

第十條　相當印紙ノ貼用ナキ骨牌、第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ之ヲ引取ルコト

ヲ得ス

第十一條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造所、販賣所又ハ販賣者ニ就キ骨牌ノ製造又ハ販賣上必要ナル檢査ヲ爲スコトヲ得

第十二條　外國ニ輸出スル骨牌及骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ見本ニ供スル骨牌ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ骨牌稅ヲ免除ス

前項ノ骨牌ニ付テハ第六條第九條第十條第十五條及第十六條ヲ適用セス

第十三條　骨牌ノ製造ヲ爲ス者免許料ヲ納付セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス

第十四條　免許ヲ受ケスシテ骨牌ノ製造ヲ爲シタル者ハ三百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ免許ヲ受ケスシテ骨牌ノ販賣ヲ爲シタル者ハ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

免許ヲ受ケスシテ骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲シタル者ノ所持ニ係ル骨牌ハ之ヲ沒收ス

第十五條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者相當印紙ノ貼用ナキ骨牌ヲ讓渡シタルトキハ脫稅高二十倍ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ハ沒收ス但シ脫稅高三十倍ノ金額十圓ニ達セサル時ハ十圓ノ罰金ニ處ス

第十六條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者相當印紙ノ貼用ナキ骨牌ヲ所持シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ第六條ノ製置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ヲ所持シ又ハ之ヲ讓渡シタルトキハ三圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

第十七條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者骨牌ノ出入ニ關シ帳簿ノ記載ヲ怠リ又ハ之ヲ詐リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ其ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十九條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタル場合トキハ製造又ハ販賣ヲ爲ス者其ノ責ニ任ス

第二十一條　本法ハ伊呂波加留多、歌加留多及政府ノ認許ヲ得タル骨牌ニ之ヲ適用セス

附則

第二十二條　本法ハ明治三十五年七月二日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條　本法施行一年前ヨリ骨牌ノ製造ヲ爲ス者ニシテ同一ノ場所ニ於テ引續キ骨牌ノ製造ヲ爲ス者ニハ第二條ヲ適用セス

第二十四條　本法施行前ヨリ骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者本法施行ノ日ヨリ七日以內ニ第一條ニ準シ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做サレサル者ノ所持ニ係ル骨牌ハ之ヲ廢毀スヘシ

前項ニ違反シタル者ハ三百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

第二十五條　本法施行ノ際骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ所持ニ係ル骨牌ハ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ニ於テ第四條第五條ニ依リ相當印紙ヲ貼用シ第六條ノ裝置及第七條ノ消印ヲ爲スヘシ

第二十六條　本法ヲ臺灣ニ施行スル迄又ハ臺灣ニ於テ本法ト同一若ハ之ヨリ重キ課稅ヲ爲ス迄ハ臺灣ヨリ本法施行地ニ骨牌ヲ移入スルコトヲ得ス

前項ニ違犯シタル者ハ三百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

骨牌税法施行規則

（明治三十五年五月二十二日 勅令第百五十四號）

朕骨牌税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

骨牌税法施行規則

第一條　骨牌ヲ製造セムトスル者ハ製造所及製造スヘキ骨牌ノ種類ヲ定メ免許申請書ヲ製造所所轄税務署ニ提出スヘシ骨牌製造者製造所ヲ增設シ又ハ製造スル骨牌ノ種類ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

販賣所ヲ有シテ骨牌ヲ販賣セムトスル者ハ販賣所ヲ定メ免許申請書ヲ販賣所所轄税務署ニ提出スヘシ骨牌販賣者販賣所ヲ增設セムトスルトキ亦同シ

販賣所ヲ有セスシテ骨牌ヲ販賣セムトスル者ハ免許申請書ヲ其ノ居所所轄税務署ニ提出スヘシ

第二條　骨牌製造者製造所ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造所ヲ定メ許可申請書ヲ其ノ所轄税務署ニ提出スヘシ

骨牌販賣者ニシテ販賣所ヲ有スル者販賣所ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ販賣所ヲ定メ其ノ所轄税務署ニ申告スヘシ

骨牌販賣者ニシテ販賣所ヲ有セサル者其ノ居所ヲ變更シタルトキハ其旨新居所所轄税務署ニ申告スヘシ

第三條　骨牌製造業又ハ骨牌販賣業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄税務署ニ申告スヘシ

骨牌製造業又ハ販賣業ヲ讓渡サムトスルトキハ讓受人ト連署シ所轄税務署ニ申告スヘシ

第四條　骨牌製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄税務署ニ提出スヘシ

第五條　免許料ハ毎年一月中ニ之ヲ納ムヘシ但シ新ニ免許ヲ受ケタル者ハ初年ニ限リ免許ヲ受ケタル月中ニ之ヲ納ムヘシ

骨牌製造者ハ所轄税務署ニ於テ相當ト認ムル擔保ヲ提供シテ六回以下ノ分納

ヲ申請スルコトヲ得但シ遲クトモ其ノ年十二月ヲ過クルコトヲ得ス

骨牌製造者免許ノ取消ヲ受ケタルトキハ其納付スヘキ免許料ヲ即納スヘシ

第六條　骨牌ニ包裹ヲ施シタルトキハ製造者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及製造所所在地輸入者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第七條　骨牌製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、數量及其ノ受入ノ日

二　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三　製造シタル骨牌ノ種類、組數及其ノ製造ノ日

四　貼用シタル印紙ノ金額

五　他ニ引渡シタル骨牌ノ種類、組數、價額、引渡ノ日及其ノ引渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第五號引渡先ノ記載ヲ要セス

第八條　骨牌販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　引取リタル骨牌ノ種類、組數、價額、引取ノ日及引取先

二　貼用シタル印紙ノ金額

三　販賣シタル骨牌ノ種類、組數、價額、販賣ノ日及賣渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第三號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第九條　骨牌ヲ外國ニ輸出シ骨牌稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造ノ際收稅官吏ノ承認ヲ受ケ他ノ骨牌ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ

前項ノ骨牌ヲ運搬セムトスルトキハ運搬線路及運搬先又ハ輸出港ヲ定メ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前二項ノ場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ其ノ骨牌ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ

第十條　外國輸出ノ承認ヲ得タル骨牌ニシテ承認後六箇月以內ニ於テ輸出セサルトキ又ハ輸出ノ目的ヲ廢止シタルトキハ骨牌製造者又ハ輸出者ハ直ニ包裹ヲ施シ之ニ印紙ヲ貼用シ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前項ニ依リ骨牌ニ包裹ヲ施シタルトキハ製造者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及製

造所所在地輸出者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第十一條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第十二條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得ムトスル者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十三條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十四條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得スヘシ

附則

第十五條　本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セムトスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第十七條　前條ノ申告ヲ爲シタル者骨牌稅法施行ノ際同法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第六條ノ記載ヲ爲スヘシ

第十八條　骨牌稅法施行ノ際骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ所持ニ係ル骨牌ヲ外國ニ輸出シ骨牌稅ノ免除ヲ得ムトスル者ニ付テハ第九條及第十條ヲ準用ス

第十九條　明治三十五年ニ限リ免許料ハ七月中ニ之ヲ納ムヘシ

第五條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

●印紙稅法（明治三十二年三月九日法律第五十四號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル印紙稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

印紙稅法

第一條　財產權ノ創設、移轉、變更若ハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財產權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘシ

第二條　證書ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限リ記載金高一萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムベシ但シ印紙稅額五十圓トナルトキハ五十圓ニ止メ一錢未滿トナリ又ハ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ一錢ニ切上クルモノトス

金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價額ノ單位又ハ其ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス

第三條　（三十四年法律第十六號ヲ以テ削除）

第四條　左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一冊一年以內ノ附込ニ對シ下ニ定ムル所ノ印紙稅ヲ納ムベシ

一委任狀　印紙稅一錢

一爲替手形　印紙稅二錢（同上ヲ以テ本號追加）

一約束手形　印紙稅二錢（同上）

一銀行預金證書　印紙稅二錢

一船荷證券　印紙稅二錢

一運送貨物引換證　印紙稅二錢

一倉荷預證券　印紙稅二錢

一倉荷質入證券　印紙稅二錢

一保險證券　印紙稅二錢

一株券　印紙稅二錢

一債券　印紙稅二錢

一株式申込證　印紙稅二錢

一地上權、永小作權、地役權ニ關スル證書　印紙稅二錢

一使用貸借、賃貸借、雇傭、寄託、定期金ニ關スル契約證書　印紙稅二錢

一定款及組合契約書　印紙稅二錢

一權利ノ變更ニ關スル證書　印紙稅二錢

一追認、承認ニ關スル證書　印紙稅二錢
一物品切手　印紙稅二錢
一賣買仕切書　印紙稅二錢
一送狀　印紙稅二錢
一受取書　印紙稅二錢
一金高記載ナキ證書　印紙稅二錢
一擔保品差入證書、擔保品預證書　印紙稅二錢
一通帳　印紙稅二錢
一判取帳　印紙稅二錢

第五條　左ニ掲グル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

一官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿
一官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿
一國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書
一慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル金員物件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官廳若ハ公署ニ提出スル證書
一俸給、給料、歲費、手當金、賞與金、年金、恩給金、扶助料、旅費及救恤金ノ受取書
一小切手
一金高五圓未滿ノ爲替手形、約束手形
一營業ニ關セサル受取書
一金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ送狀、受取書又ハ賣買仕切書
一主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約
一證券ノ裏書及手形ノ裏面ニ記載シタル受取書
一株券、債券ノ讓渡ヲ證明スヘキ裏面記載
一手形ノ引受、保證
一手形及證券ノ拒絕證書

一手形及證券ノ寫本、謄本

第六條　印紙稅ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ印紙稅額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納付シテ稅印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得

（三十四年法律第十六號ヲ以テ條中削除）

第七條　一冊ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ調製シタルモノト看做ス

第八條　證書ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國貨幣ニ換算シタル金高ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘシ

第九條　印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ證書又ハ帳簿作成者ノ印章又ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシ

第十條　印紙ヲ貼用スヘキ帳簿、賣買仕切書、送狀ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第十一條　證書、帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケサル者ハ脫稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス

第十二條　第十條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條　第九條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十四條　此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

附則

第十五條　此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十六條　明治十七年第十一號布告證券印稅規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十七條　明治十七年第十一號布告證券印稅規則ニ依ル手形用紙ニシテ此ノ法律施行ノ際自用者ノ所持ニ係ルモノハ此ノ法律施行後ニ於テモ仍之ヲ使用スルコトヲ得但シ手形用紙記載ノ稅金高以上ニ之ヲ使用セムトスルトキハ其ノ不足額ハ印紙ヲ貼用シテ之ヲ補足スヘシ

●證書ニ稅印押捺請求方（明治三十二年三月十一日 大藏省令第五號）

印紙稅法第六條ニ依リ證書ニ稅印ノ押捺ヲ求メムトスル者ハ所轄稅務署ニ申出稅金ヲ納付シ其ノ領收書又ハ稅務署ノ納稅濟證明書ヲ添ヘ用紙ト共ニ請求書ヲ大藏省ニ提出スヘシ

●收入印紙ニ關スル件（明治三十一年七月十四日 勅令第百四十號）

朕收入印紙ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

證券印紙、煙草印紙、訴訟用印紙、賣藥印紙、登記印紙ヲ貼用スヘキ場合ニハ自今一樣ノ收入印紙ヲ用ウヘシ其ノ形式ハ大藏大臣之ヲ定ム但シ從來ノ證券印紙、煙草印紙、訴訟用印紙、賣藥印紙、登記印紙ハ當分ノ內收入印紙ニ代ヘ使用スルコトヲ得

●收入印紙ノ形式（明治三十一年七月二十八日 大藏省令第十二號）

明治三十一年勅令第百四十號ニ依ル收入印紙ノ形式左ノ通相定ム

（印紙圖式略ス）

（雛形）

一厘 萠黃色　（同上）一錢 淡青色
二厘 橙黃色　二錢 綠色
三厘 濃青色　五錢 紫色
五厘 赭色　十錢 紅色
（金額ハ各相當額ヲ記ス）（金額ハ各相當額ヲ記ス）
（同上）　（同上）
五十錢（上模樣 綠色 地紋 淡紅色）　十圓 橙黃色

證書ニ稅印押捺請求方　收入印紙ノ形式　收入印紙ニ關スル件

一圓（上模様青色　地紋黄色）　五十圓　青色　千五十四

五圓（上模様青色　地紋紅色）　百圓　紫色

（金額ハ各相當額ヲ記ス）（金額ハ各相當額ヲ記ス）

●登錄稅法（明治二十九年三月二十七日　法律第二十七號）

三十年法律第三十一號三十二年法律第六十號第八十三號三十三年法律第四十四號三十四年法律第二十六號及三十五年法律第八號ヲ以テ改正削除

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル登錄稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

登錄稅法

第一條　登錄稅ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徵收スベシ

第二條　不動產ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムベシ

一　法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得　不動產價格　千分ノ七

二　第一號以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ因ル所有權ノ取得　不動產價格　千分ノ十五

三　遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得　不動產價格　千分ノ四十

四　第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得　不動產價格　千分ノ二十五

五　從來保有セル所有權ノ保存　不動產價格　千分ノ二

六　共有物ノ分割　分割ニ因リテ受クル不動產ノ價格　千分ノ五

七　永代ノ地上權ノ取得　不動產價格　千分ノ二十五

登錄稅法　千五十五

八　地上權、永小作權ノ取得　不動產價格　千分ノ二
存續期間十年未滿　不動產價格　千分ノ三
存續期間二十年未滿　不動產價格　千分ノ四
存續期間三十年未滿　不動產價格　千分ノ五
存續期間三十年以上　不動產價格　千分ノ五
存續期間ノ定メナキモノ
但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登錄稅ヲ計算ス

九　賃借權ノ取得　不動產價格　千分ノ一
存續期間十年未滿
存續期間十年以上　不動產價格　千分ノ二
存續期間ノ定メナキモノ　不動產價格　千分ノ一
但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登錄稅ヲ計算ス

十　地役權ノ取得　要役地價格　千分ノ一

十一　華族世襲財產ノ創設　不動產價格　千分ノ二十

十二　先取特權ノ保存又ハ取得　債權金額又ハ不動產工事費用豫算金額　千分ノ六
但シ債權金額ナキトキ又ハ先取特權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ先取特權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十三　質權、抵當權ノ取得　債權金額　千分ノ六
但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十四　競賣、強制管理ノ申立　債權金額　千分ノ六
但シ競賣若ハ強制管理ニ付スベキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキ

ハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十五　假差押、假處分　債權金額　千分ノ四

但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十六　抵當アル債權ノ差押　債權金額　千分ノ六

但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十七　相續財產ノ分離　所有權ニ付テハ　不動產價格　千分ノ六

所有權以外ノ權利ニ付テハ　不動產價格　千分ノ二

十八　請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復　不動產每一箇　金三十錢

十九　假登記　不動產每一箇　金二十錢

二十　豫告登記　不動產每一箇　金二十錢

二十一　附記登記　不動產每一箇　金十錢

但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

二十二　登記ノ更正變更又ハ抹消　不動產每一箇　金十錢

但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第三條　船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得　船舶價格　千分ノ三

二　第一號以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ因ル所有權ノ取得　船舶價格　千分ノ六

三　遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得

二　[illegible]　船舶價格[illegible]　千分ノ二十

四　第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得　[illegible]　千分ノ六

[illegible]　船舶價格[illegible]　千分ノ十五

五　從來保有セル所有權ノ保存　[illegible]　船舶價格　千分ノ十

六　賃借權ノ取得[illegible]　[illegible]　船舶價格[illegible]　千分ノ一[illegible]

第三節　存續期間十年未滿[illegible]　船舶價格　千分ノ二

[illegible]　存續期間十年以上　[illegible]　船舶價格[illegible]　千分ノ十[illegible]

[illegible]　存續期間ヲ定メナキモノ[illegible]

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ

二十一　控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登錄稅ヲ計算ス[illegible]

七　賃權ノ抵當權ノ取得[illegible]　債權金額[illegible]　千分ノ六

二十二　但シ債權金額ナキトキ又ハ賃權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ債權金

二十三　額ヨリ寡キトキハ賃權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト

[illegible]　看做ス[illegible]　債權金額[illegible]　千分ノ六

八　競賣ノ申立[illegible]

[illegible]　但シ競賣ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ

[illegible]　價格ヲ以テ債權金額ト看做ス　[illegible]　債權金額　千分ノ四

九　假差押、假處分

第四節　但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其

[illegible]ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十一　抵當アル債權ノ差押[illegible]　債權金額[illegible]　千分ノ六

[illegible]　但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ

[illegible]　價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十一　請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復　[illegible]　船舶每一箇　金五十錢

[illegible]　船舶每一箇　金二十錢

十三　假登記[illegible]　千六十二

登錄稅法

十三　賃借登記　　船舶毎一箇　金二十錢

十四　附記登記　　船舶毎一箇　金十錢

但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

十五　登記ノ更正變更又ハ抹消　　船舶毎一箇　金十錢

但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第四條　船舶ノ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムベシ

一　新規登錄　　海計噸　金五十錢

二　轉籍ヲ以テ登錄ヲ受ケタルトキ　　毎十噸　金十錢

三　除籍ヲ以テ登錄ヲ受ケタルトキ　　海計噸　金五錢

四　登錄ノ變更　　船舶毎一箇　金十錢

船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在テハ積石數百石ヲ十噸トシテ計算ス

第五條　土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登錄スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムベシ

一　新規登錄　　地價　千分ノ二十

二　地價ノ設定　　地價　千分ノ十

三　地價ノ修正　　地價　千分ノ八十

四　開墾　　地價　千分ノ十

五　開墾猶下年期付與　　地價　千分ノ十

六　地價據置年期付與　　地價　千分ノ十

七　新開免租年期延長　　地價　千分ノ十

八　猶下年期、地價據置年期ノ延長　　地價　千分ノ十

九　低價年期ノ付與　　地價　千分ノ一

十　地租條例第二十二條ノ地價ノ修正　　地價　千分ノ一

十一　地價ノ復舊　千分ノ一

本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類地地價ノ比準ニ依ル

第六條　商事會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ但シ第一號第三號第六號第九號ノ場合ニ於テ稅金額十圓未滿ナルトキハ十圓トス

一　合名會社、合資會社設立　財產ヲ目的トスル出資ノ價格　千分ノ三

二　合名會社、合資會社出資增加　財產ヲ目的トスル增出資ノ價格　千分ノ三

三　株式會社設立　拂込株金額　千分ノ四

四　株式會社資本增加　增資拂込株金額　千分ノ四

五　株式會社第二回以後ノ株金拂込　毎回拂込株金額　千分ノ四

六　株式合資社設立　拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格　千分ノ四

七　株式合資會社資本增加　增資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格　千分ノ四

八　株式合資會社第二回以後ノ株金拂込　毎回拂込株金額　千分ノ四

九　合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立　拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格　千分ノ一

十　合併ニ因ル會社資本ノ增加　增資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格　千分ノ一

十一　債券發行　債權總金額　千分ノ一

十二　支店設置　毎一箇所　金十圓

十三　本店又ハ支店ノ移轉　毎一件　金五圓

十四　支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅　毎一件　金五圓

十五　登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止　毎一件　金五圓

但シ商法施行法ニ依リ新ニ登記スヘキ事項ノ登記ハ登記事項ノ變更ト

十六	登記ノ更正又ハ抹消	毎一件 金五圓
十七	解散	毎一件 金三圓
十八	清算人ノ選任、解任又ハ變更	毎一件 金一圓
十九	清算ノ結了	毎一件 金一圓

支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ毎一件金一圓ヲ登錄稅ヲ納ムヘシ

財團法人又ハ營利ヲ目的トセサル社團法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

六	法人ノ設立（民法施行法ニ依リ法人ト認メラレタルモノノ新ニ受クル登記トモ）	毎一件 金五圓
七	法人設立後ノ事務所設置	毎一件 金三圓
八	事務所ノ移轉	毎一件 金二圓
九	登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止	毎一件 金一圓
十	登記ノ更正又ハ抹消	毎一件 金五十錢
十一	解散	毎一件 金五十錢
十二	清算人ノ選任、解任又ハ變更	毎一件 金五十錢
十三	清算ノ結了	毎一件 金五十錢

第六條ノ二 左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一	商號ノ新設又ハ取得	毎一件 金五圓
二	支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅	毎一件 金五圓
三	船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅	毎一件 金五圓

四　商法第五條第七條ニ依ル登記　毎一件　金二圓

五　民法第七百九十四條第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記　毎一件　金二圓

六　登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止　毎一件　金二圓

七　登記ノ更正又ハ抹消　毎一件　金一圓

支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ毎一件金五十錢ノ登錄稅ヲ納ムベシ

第七條　左ノ事項ニ付キ辯護士名簿ニ登錄ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムベシ

一　新規登錄　金二十圓

二　登錄換　金十圓

三　取消ノ請求　金一圓

第八條　左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムベシ

一　新規登錄

醫師　金二十圓

藥劑師　金十二圓

獸醫　金十二圓

蹄鐵工　金五圓

假開業醫師　金五圓

假免許獸醫　金三圓

假免許蹄鐵工　金一圓

二　登錄事項ノ變更　毎一件　金五十錢

第九條　左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムベシ

一　新規登錄

登錄稅法

甲種船長	金十五圓
甲種一等運轉士	金十圓
甲種二等運轉士	金六圓
乙種船長	金十圓
乙種一等運轉士	金四圓
乙種二等運轉士	金三圓
丙種船長	金六圓
丙種運轉士	金二圓
機關長	金十五圓
一等機關士	金十圓
二等機關士	金六圓
三等機關士	金三圓
水先人	金二十圓

二　登錄事項ノ變更　毎一件　金五十錢

第十條　著作權ヲ登錄ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　文藝、學術、美術ノ著作物	毎一種一回　金十圓
但シ演劇脚本及寫眞ヲ除ク	金三十圓
一　新聞紙及定期刊行物	毎一號　金五十錢
一　演劇脚本	毎一種一回　金五十圓
一　寫眞	毎一版　金五圓
一　西著作權ノ讓渡又ハ質入	毎一件　金五圓
二　無名又ハ變名著作物ノ著作者ノ實名登錄	毎一件　金五圓

第十一條　特許ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　讓渡又ハ共有	毎一件　金十圓
二　質入	毎一件　金五圓

第十二條　意匠ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　讓渡又ハ共有　第一等　物品一類毎ニ金二圓

二　賣入　第二等　物品一類毎ニ金一圓

第十三條　商標ニ關シ左ノ事項ノ登錄ヲ受クル者ハ左ノ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　讓渡又ハ共有　第一等　商品一類毎ニ金十圓

第十四條　鑛業ニ關シ左ノ事項ヲ官廳ニ登錄スルトキハ記名者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　試掘　第一等　金七十五圓

二　採掘　第一等　金百五十圓

三　試掘增區及增減區ニ係ル訂正　第一等　金三十圓

四　採掘增區及增減區ニ係ル訂正　第一等　金七十五圓

五　買受ヒ讓受　第一等　金七十五圓

六　採掘權書入又ハ試掘延期　第一等　金三十圓

七　減區ニ係ル訂正　第一等　金五圓

八　鑛區ノ合併又ハ分割　第一等　金十五圓

九　廢業　第一等　金五圓

第十五條　削除

第十六條　國債ノ登錄ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄　債權金額　千分ノ十五

第十六條　登錄變更　債權金額　千分ノ二

三　登錄除却　債權金額　千分ノ一

第十七條　登錄稅ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十八條　登錄稅ハ總テ金二錢以上トス二錢未滿ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス

第十九條　左ニ掲ケル事項ハ登錄稅ヲ課セス

第十六 政府自己ノ爲ニスル登記

二 府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動産ノ登記

第三 社寺、堂宇ノ敷地及墳墓地ニ係ル登記

四 明治六年第十八號布告地所賣入書入規則及同八年第百四十八號布告建物賣入賣規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テ債權者ヨリ申請スル登記

第十九條ノ二 登記所ニ於テ登記申請者ノ申告シタル課稅標準ノ價格ヲ不當ト認ムルトキハ二名ノ評價人ヲ選定シ之ヲ評價セシム評價一致セサルトキハ其數ノ平均ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ評價申請價格ヨリ多キトキハ評價人ニ給スル旅費手當ハ登記申請者ノ負擔トス

官吏及當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者ハ評價人トナルコトヲ得ス

附則

第二十條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手數料等ニシテ本法ニ規定スル登錄稅ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●登錄稅法施行規則（明治三十二年五月十八日 勅令第二百五號）

第一條 印紙ヲ以テ納ムル登錄稅ハ登錄ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

第二條 登錄稅額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得

第三條 官廳又ハ公署ヨリ登記又ハ假登記ヲ登記所ニ囑託スヘキ場合ニ於テハ登錄稅ヲ納ムヘキ者其ノ官廳又ハ公署ニ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ提出シ其ノ官廳又ハ公署ハ登記囑託書ニ其ノ印紙ヲ貼用シ又ハ其ノ證書ヲ添付シテ登記所ニ送付スヘシ

第四條　土地臺帳ノ登錄ニ付登錄稅ヲ納ムヘキ場合ニ於テ書類ヲ提出セサルトキハ稅務署ノ通知ニ依リ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ稅務署ニ提出スヘシ

第五條　土地臺帳ノ登錄ニ付登錄稅ヲ納ムヘキ場合ニ於テ相當印紙ヲ貼用セス若シクハ提出セス又ハ現金納付ノ手續ヲ爲ササルトキハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第六條　登錄稅法第十九條ノ二ニ依ル評價人ノ旅費ハ實費トシ手當ハ一日金五十錢以上三圓以下ノ範圍內ニ於テ登記所ノ見込ヲ以テ之ヲ支給ス

課稅標準額及稅額計算ニ關スル件

（明治三十五年三月十一日法律第二十二號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル課稅標準額及稅額計算ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　國稅ノ課稅標準額及稅額ハ四捨五入ノ法ニ依リ錢位ニ止ム

第二條　法令ヲ以テ稅金ノ分納ヲ規定シタル場合ニ於テ稅金金額十錢以下ナルトキ又ハ各納期ニ於ケル稅額錢位未滿ノ端數アルトキハ左ノ區別ニ依リ之ヲ徵收ス

一　稅金全額十錢以下ナルトキハ最初ノ納期ニ於テ全額ヲ一時ニ徵收ス

二　各納期ノ稅金額錢位未滿ノ端數アルトキハ錢位未滿ノ端數ニ限リ最初ノ納期ニ於テ合算シテ之ヲ徵收ス

第三條　前條ニ依リ一時ニ徵收シ又ハ合算シテ徵收シタル稅金ハ左ノ場合ニ於テモ之ヲ還付セス

一　土地所有權ノ移轉又ハ質權ノ設定、移轉若ハ消滅アリタルトキ

二　地租ヲ課スル土地ニシテ之ヲ課セサル土地ト爲リタルトキ

第四條　前三條ノ規定ハ府縣市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ租稅及公課ニ之ヲ準用ス

第五條　一筆ノ土地ノ地價、地租ニシテ錢位未滿ノモノ及關稅、竇藥印紙稅ニ付

テハ第一條ヲ適用セス

附　則

第六條　明治三十二年法律第五十七號ハ之ヲ廢止ス

第七條　土地臺帳ニ登錄シタル地價、地租ハ漸次本法ニ依リ更正ス

○勅令明治三十五年四月十六日第百三十九號　朕明治三十五年法律第二十二號第四條ニ依リ公共團體ヲ指定スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十五年法律第二十二號第四條ニ依リ公共團體ヲ指定スル左ノ如シ

一　水利組合

沖繩縣ノ區及間切島

北海道ノ區及土功組合

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國稅徵收法（明治三十年三月二十六日法律第二十一號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國稅徵收法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國稅徵收法

第一章　總則

第一條　國稅ノ徵收ハ關稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ此ノ法律ニ依ル

第二條　國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス

第三條　納稅人ノ財產上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス

第四條ノ一　納稅人左ノ場合ニ該當スルトキハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得（三十五年法律第三十六